

第5章

資料

感染症発生動向調査事業定点一覧

内科定点(59)

(2021年12月31日現在)

医療機関名	所在地	電話番号
坂本クリニック	鶴見区生麦5-6-2	505-0347
畑医院	鶴見区市場西中町6-23	501-2019
橋本小児科	鶴見区下末吉1-24-15	581-5447
内科・小児科前広医院	鶴見区豊岡町10-7	571-2333
いわた内科クリニック	神奈川区二ツ谷町6-3 雷鳴堂ビル2F	317-8166
藤江医院	神奈川区平川町26-2	491-8578
薩田内科クリニック	神奈川区菅田町2647 菅田町メディカルビル1F	477-4022
福澤クリニック	神奈川区片倉1-9-3 まるあビル1F	488-5123
鈴木内科クリニック	西区戸部町5-204	231-3355
スカイビル内科	西区高島2-19-12 スカイビル21F	461-1603
新妻クリニック	中区根岸町3-176-39	629-3585
川俣クリニック	中区麦田町4-107 ライフ山手2F	624-2960
室橋内科医院	中区本牧三之谷23-16	621-0139
鵜養医院	南区宮元町3-55	334-8753
よなみね内科クリニック	南区共進町1-34 森ビル1F	720-6008
あずま医院	南区清水ヶ丘1-21	231-7026
黒沢クリニック	港南区港南台7-42-30 サンライズ港南台2F201	833-9632
古家内科医院	港南区丸山台2-34-8	844-3080
宮川医院	港南区上大岡西1-12-17	842-0978
川村クリニック	保土ヶ谷区権太坂1-52-14	742-1010
篠崎医院	保土ヶ谷区上星川3-15-5	371-0038
浅野医院	保土ヶ谷区西谷3-23-33	371-3018
黒田医院	旭区柏町47-11	364-9772
大塚クリニック	旭区市沢町995-11 田口ビル1F	355-5377
若葉台クリニック	旭区若葉台1-3-116	921-3700
石田クリニック	旭区白根6-1-3	953-3308
遠藤内科	磯子区栗木1-28-27	773-7273
板垣医院	磯子区洋光台3-5-31	833-6141
富野医院	磯子区岡村6-5-35	752-3221
いとうファミリークリニック	金沢区谷津町378	783-5769
並木クリニック	金沢区並木2-9-4	788-0888
桑原内科クリニック	金沢区六浦5-21-3-106	791-5751
中野こどもクリニック	港北区富士塚1-1-1	434-6500
服部クリニック	港北区大倉山1-28-3	545-0001
横山クリニック	港北区大倉山4-5-1 大倉山ハイム1-101	531-1575
石井内科医院	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
椎橋医院	港北区大豆戸町200 菊名レジデンスプラザ101号	401-9092
野村医院	緑区いぶき野8-15	981-2568
みなみ台小に科	緑区長津田みなみ台1-20-9	982-7041
田村内科クリニック	緑区十日市場町804-2 ホームステプラザ十日市場西館101	989-6388
西川内科医院	青葉区あざみ野1-26-10	901-1241

医療機関名	所在地	電話番号
徳岡クリニック	青葉区荏田町477	911-6000
清水内科医院	青葉区青葉台1-28-2	981-7231
えなみクリニック	青葉区桂台2-27-21	962-9980
斉木クリニック	都筑区高山1-45 沖商事ビル102	941-0082
葛が谷つばさクリニック	都筑区葛が谷4-14 ベルデゼゾン1F	945-2772
小林クリニック	都筑区すみれが丘38-31	592-0041
よしい内科クリニック	戸塚区汲沢1-10-46 踊場メディカルセンター2F	861-2511
内科小児科むかひら医院	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
半田医院	戸塚区平戸2-30-8	821-1235
おかもと内科皮膚科クリニック	戸塚区川上町84-1 ケアハウスゆうあい4階B号室	822-3333
江口医院	栄区飯島町1413	891-0067
米田クリニック	栄区桂台北10-22	895-1300
小林内科クリニック	泉区中田南2-2-2	801-2551
柏木医院	泉区和泉中央南1-37-7	802-8253
かねむらクリニック	泉区中田北2-6-14 アイエイビルⅡ 1F-B	805-6685
まいえ内科	瀬谷区橋戸2-31-3 グランデュールプラザ2F	301-8561
三ツ境ライフクリニック渡部内科	瀬谷区三ツ境2-1 三ツ境ライフB館	360-3558
本郷クリニック	瀬谷区本郷3-20-21	304-2017

小児科定点(94)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
宮川医院	鶴見区北寺尾6-7-19	585-5505
さくら診療所	鶴見区矢向5-4-34	581-6070
川端こどもクリニック	鶴見区生麦5-21-16	505-6670
石井医院	鶴見区生麦5-8-44	501-5531
渡部クリニック	鶴見区鶴見中央3-19-11 ココファン横浜鶴見1F	506-3657
優美子供クリニック	鶴見区駒岡5-5-12 武田メディカルビルディング4階	576-6226
大口東総合病院	神奈川区入江2-19-1	401-2411
くぼた小児科	神奈川区新子安1-2-4 オルトヨコハマビジネスセンター1F	438-0291
まつうら小児科・内科	神奈川区三ツ沢中町8-6	321-3171
鈴木小児科医院	神奈川区神大寺4-8-15	491-4510
はたの東神奈川キッズクリニック	神奈川区東神奈川2-42-5 ゴールデン東神奈川ビル201	451-0111
村瀬クリニック	神奈川区西神奈川1-12-7 東神奈川イーストアーケビル1F	320-3306
富田こどもクリニック	西区藤棚町1-58-6	242-1543
西戸部こどもクリニック	西区西戸部町2-174	260-1495
青木小児科医院	西区境之谷73	231-4144
向山小児科医院	中区本牧三之谷22-1	623-7311
かめのはしクリニック	中区石川町3-108-1	226-2818
寺道小児科医院	中区本牧町1-178	623-1021
小菅医院	中区石川町1-11-2 小菅医療ビル4F	651-6177
宇南山小児科医院	南区永田北3-36-5	714-1036
ゆいこどもクリニック	南区弘明寺町字前田144-1 水谷ビル2F 203号室	730-4152
中村クリニック	南区井土ヶ谷下町28-16	720-1266

医療機関名	所在地	電話番号
みやじ小児科クリニック	南区六ツ川3-86-5	716-1011
相原アレルギー科・小児科クリニック	南区高根町3-17 スーク大通り公園参番館201号	261-0737
小島小児科	港南区東永谷2-2-20	823-1121
竹田こどもクリニック	港南区上永谷2-11-1 いずみプラザ上永谷112	846-1088
原口小児科医院	港南区丸山台3-41-1	845-6622
ふくお小児科アレルギー科	港南区港南台1-48-7	833-7737
上大岡こどもクリニック	港南区上大岡西1-15-1 カミオ404-2	882-0810
星川小児科クリニック	保土ケ谷区星川2-4-1 星川SFビル4F	336-2260
おざき小児科	保土ケ谷区仏向町121-2	348-4141
宮川内科小児科医院	保土ケ谷区岩間町1-4-1	331-2478
新桜クリニック	保土ケ谷区新桜ヶ丘2-24-12-2F	352-4482
北原医院	保土ケ谷区上菅田町59	381-1622
琴寄医院	旭区鶴ヶ峰1-13-2	373-6752
はせがわこどもクリニック	旭区笹野台1-1-36 城田ビル1F	360-0755
サンクリニック小児科	旭区柏町127 相鉄南万騎が原第4ビル102	366-6821
川島医院	旭区上白根町891 西ひかりが丘団地18-5-102	952-2039
二俣川こどもクリニック	旭区二俣川2-50-14 コプレ二俣川7F	366-0505
育愛小児科医院	旭区中白根1-10-15	951-1152
矢崎小児科	磯子区磯子2-13-13	751-4378
さいとう小児科	磯子区岡村7-20-14	752-4882
住田こどもクリニック	磯子区下町8-16 1F	753-7151
バニーこども診療所	磯子区洋光台6-19-43	830-0767
浅井こどもクリニック	金沢区釜利谷東2-14-11 高野第2ビル2F	785-1152
かわなこどもクリニック	金沢区瀬戸19-14 金沢八景金井ビル3F	350-6277
大久保医院	金沢区六浦南2-42-18	788-6565
高橋こどもクリニック	金沢区富岡東5-18-1 長谷川メディカルプラザ富岡2F-G	775-3111
ふじわら小児科	金沢区富岡西1-48-12	773-6333
あべこどもクリニック	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
あい診療所	港北区鳥山町1018	595-9481
大川小児科クリニック	港北区綱島東2-12-19 福島ビル1F	546-1071
カンガルーこどもクリニック	港北区新羽町2080-1 メディカルモールプラザ2F	309-0755
斉藤小児科心とからだのクリニック	港北区高田東1-25-3	531-3574
マリアこどもクリニック	港北区岸根町408-123	430-5415
日吉こどもクリニック	港北区日吉本町1-9-26 MKハイム1F	560-1850
シブヤチャイルドクリニック	港北区大倉山3-56-22 ナビウス大倉山1F	542-6915
一色こどもクリニック	緑区白山1-1-3 ダイアパレス鴨居1F	933-0061
ちはら小児科クリニック	緑区霧が丘3-2-9	923-1226
森の子キッズクリニック	緑区中山5-29-18	929-5501
さかたに小児科	緑区台村町309-1 土井ビル1F	930-3110
ぽっけキッズクリニック	緑区長津田みなみ台6-24-13	988-5330
太田こどもクリニック	青葉区あざみ野1-8-2 あざみ野メディカルプラザ3F	909-5335
渡辺医院	青葉区奈良町1670-44	962-8126
松岡医院	青葉区しらとり台20-13	981-6093
あざがみクリニック	青葉区美しが丘西3-65-6	909-0092

医療機関名	所在地	電話番号
はやし小児科医院	青葉区松風台13-5 ライト松風台3	983-3254
有本小児科内科	青葉区美しが丘2-20-18 トムス有本101	901-6870
はなわ小児科内科クリニック	青葉区藤が丘1-28-3 ウィスタリア28-2F	972-1515
水野クリニック	都筑区南山田町4258	593-4040
大山クリニック	都筑区茅ヶ崎南5-1-10 ノーブル茅ヶ崎	941-7171
山下小児科クリニック	都筑区北山田3-18-15	593-9770
サウスウッドこどもクリニック	都筑区茅ヶ崎中央6-1 サウスウッド3F	942-7700
キッズクリニック鴨居	都筑区池辺町4035-1 ららぽーと横浜1101-6	929-0085
マサカ内科小児科	戸塚区品濃町523-3 マサカビル1F	823-7866
しばた医院	戸塚区戸塚町2810-8 土屋クリニックビル1F	865-6666
小雀小児科医院	戸塚区小雀町1123-2	852-2353
小泉小児科クリニック	戸塚区汲沢8-5-5	871-5566
ドリーム小児科	戸塚区俣野町1404-8	851-3661
海のこどもクリニック	戸塚区川上町91-1 モレラ東戸塚3F	390-0841
うえの小児科クリニック	戸塚区吉田町944-5 KAWARA102	869-0311
吉田こどもクリニック	栄区野七里1-4-22	891-8888
若竹クリニック	栄区元大橋1-27-5	891-6900
内山小児科医院	栄区笠間2-31-13	892-4090
つちだこどもクリニック	栄区本郷台3-1-7	893-4176
あいかわこどもクリニック	泉区中田北2-6-14 アイエイビルⅡ 1F	805-6605
渡辺こどもクリニック	泉区西が岡1-13-6	813-1618
ふくだ小児科クリニック	泉区上飯田町938-1 いずみ中央クリニックビル3F	805-1020
はっとり小児科	泉区和泉中央南1-10-37 立場AMANOビル2F	804-4153
瀬谷こどもクリニック	瀬谷区中央1-10 カサ・デ・パティオ2F	304-0045
池部小児科・アレルギー科	瀬谷区三ツ境21-10 サニーハイツ三ツ境1F	360-6080
なごみクリニック	瀬谷区二ツ橋町489-45	360-8183
ひかりこどもクリニック	瀬谷区相沢2-60-6	306-1066

眼科定点(22)

医療機関名	所在地	電話番号
ちぐさ眼科医院	鶴見区鶴見中央4-16-3 トミヤビル4F	502-0222
豊岡アイクリニック	鶴見区寺谷1-3-2 山田メディカルビル2F	571-5861
矢島眼科医院	神奈川区片倉5-1-1 ARビル3F	482-1950
まつい眼科医院	西区戸部本町51-10	322-6249
秋山眼科医院	中区尾上町3-28	641-9361
吉野町眼科	南区山王町4-26-3 ストービル秋山1F	260-6726
みやざき眼科クリニック	港南区日限山1-57-40	829-0223
和田町眼科クリニック	保土ヶ谷区和田1-13-21 工藤ビル2F	337-2823
塚原眼科医院	旭区二俣川1-5-38 FSビル2F	363-1102
磯子うすい眼科	磯子区森1-9-1 アクロスキューブ磯子3F	751-1122
おいかわ眼科	金沢区能見台通8-1-2F	784-8558
つなしま眼科	港北区綱島西2-13-9 ウィンダム綱島ビル1F	531-7132
ひよし眼科	港北区日吉本町1-4-18 平林ビル1F	562-5331
宮崎眼科	緑区長津田みなみ台4-7-1 アピタ長津田店1F	989-1805

医療機関名	所在地	電話番号
眼科中井医院	青葉区美しが丘2-14-7	905-5777
スマイル眼科クリニック	青葉区青葉台1-6-12カンゼームビル4F	988-4912
ニュータウン北眼科	都筑区中川中央1-31-1-4123 モザイクモール港北4F	482-3334
井上眼科	戸塚区柏尾町1016-2	822-2520
とつか眼科	戸塚区戸塚町16-5 ARKビル3F	861-6620
永井眼科医院	栄区本郷台3-1-3	893-5114
緑園都市眼科後藤クリニック	泉区緑園4-1-2 相鉄ライブビル2F	813-2277
高橋眼科クリニック	瀬谷区瀬谷2-31-3 グランデュールプラザ2F	302-6337

性感染症定点(29)

医療機関名	所在地	電話番号
鶴見クリニック	鶴見区豊岡町6-9 サンワイズビル3F	584-8233
熊切産婦人科	鶴見区豊岡町10-2	571-0211
やました泌尿器科・皮フ科クリニック	神奈川区六角橋1-13-1 ビッグ・ライズビル六角橋1F	439-2022
大石レディースクリニック	神奈川区片倉2-1-21 大石医療ビル1F	481-1101
横浜相鉄ビル皮膚泌尿器科医院	西区北幸1-11-5 相鉄KSビル2F	311-3208
石橋泌尿器科皮フ科クリニック	中区長者町9-166-1 ソフィアヨコハマ1F	263-0820
由利泌尿器科クリニック	南区井土ヶ谷下町213 第2江洋ビル4F	713-6311
みながわ泌尿器科クリニック	港南区上大岡西3-9-2 ルス・デ・ルナ1F	848-2118
木下クリニック	港南区丸山台3-11-15	843-4310
増田泌尿器科	保土ヶ谷区帷子町1-30-1 クボタビル2F	340-2667
浅井皮膚科クリニック	保土ヶ谷区帷子町1-14	334-3412
二俣川レディースクリニック	旭区本村町101-3 第7パレス桜咲	360-2875
希望が丘いずみクリニック	旭区中希望が丘236-19	391-0567
たけだ泌尿器科クリニック	磯子区杉田1-17-1 プラサSUGITA201	771-3055
小野医院	金沢区洲崎町5-41	701-8771
金沢文庫レディースクリニック	金沢区谷津町153-3	780-5513
新横浜母と子の病院	港北区鳥山町650-1	472-2911
大倉山レディースクリニック	港北区大倉山3-4-31 ヒルズ・カモ1F	545-5251
マザーズ高田産医院	港北区高田西2-5-27	595-4103
あまかす医院	緑区白山1-1-3	931-2404
レディースクリニック服部	青葉区美しが丘5-3-2	902-0303
ワキタ産婦人科	青葉区藤が丘2-6-1	973-7081
聖マリアクリニックセンター北	都筑区中川中央1-29-24 アピテノール3C	914-6355
やすこレディースクリニック	都筑区茅ヶ崎中央17-26 ビクトリアセンター南201	948-2567
おかもと内科皮膚科クリニック	戸塚区川上町84-1 ケアハウスゆうあい4階B号室	822-3333
坂西医院泌尿器科	戸塚区矢部町645-10	862-5677
おおご泌尿器科クリニック	栄区小菅ヶ谷1-5-1	410-8015
泌尿器科あべクリニック	泉区中田西1-1-27 ネクスタイ3F	805-5808
まきずみ泌尿器科	瀬谷区瀬谷3-1-29 瀬谷メディカルプラザ2F	300-3711

基幹病院定点(4)

医療機関名	所在地	電話番号
横浜市立市民病院	神奈川区三ツ沢西町1-1	316-4580

医療機関名	所在地	電話番号
済生会横浜市南部病院	港南区港南台3-2-10	832-1111
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院	旭区矢指町1197-1	366-1111
昭和大学藤が丘病院	青葉区藤が丘1-30	971-1151

病原体定点(17)

医療機関名	所在地	電話番号
古谷小児科（小児科）	鶴見区潮田町2-113-1	501-9160
横浜市立市民病院（基幹）	神奈川区三ツ沢西町1-1	316-4580
室橋内科医院（内科）	中区本牧三之谷23-16	621-0139
とみい眼科（眼科）	中区伊勢佐木町6-143-2 ITビル1F	261-1103
片山こどもクリニック（小児科）	港南区上大岡西2-3-6 ビルディングアルダ2F	844-7577
済生会横浜市南部病院（基幹）	港南区港南台3-2-10	832-1111
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院（基幹）	旭区矢指町1197-1	366-1111
さいとう小児科（小児科）	磯子区岡村7-20-14	752-4882
いとうファミリークリニック（内科）	金沢区谷津町378	783-5769
石井内科医院（内科）	港北区日吉本町6-26-5	561-4704
あべこどもクリニック（小児科）	港北区箕輪町2-15-22	566-2112
有本小児科内科（小児科）	青葉区美しが丘2-20-18 ドムス有本101	901-6870
はやし小児科医院（小児科）	青葉区松風台13-5 ライト松風台3	983-3254
昭和大学藤が丘病院（基幹）	青葉区藤が丘1-30	971-1151
内科小児科むかひら医院（内科）	戸塚区汲沢1-39-24	861-4160
はっとり小児科（小児科）	泉区和泉中央南1-10-37 立場AMANOビル2F	804-4153
ひかりこどもクリニック（小児科）	瀬谷区相沢2-60-6	306-1066

疑似症定点(10)

医療機関名	所在地	電話番号
済生会横浜市東部病院	鶴見区下末吉3-6-1	576-3000
横浜市立市民病院	神奈川区三ツ沢西町1-1	316-4580
けいゆう病院	西区みなとみらい3-7-3	221-8181
横浜市立みなと赤十字病院	中区新山下3-12-1	628-6100
横浜市立大学附属 市民総合医療センター	南区浦舟町4-57	261-5656
済生会横浜市南部病院	港南区港南台3-2-10	832-1111
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院	旭区矢指町1197-1	366-1111
横浜市立大学附属病院	金沢区福浦3-9	787-2800
横浜労災病院	港北区小机町3211	474-8111
昭和大学藤が丘病院	青葉区藤が丘1-30	971-1151

横浜市感染症発生動向調査事業実施要綱

制 定 平成 12 年 11 月 27 日衛 感第 340 号（局長決裁）
最近改正 令和 3 年 12 月 14 日健健安第 7109 号（局長決裁）

第 1 趣旨

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行に伴い、厚生労働省が定めた「感染症発生動向調査事業実施要綱」（以下「国要綱」という。）を基本に、横浜市において、感染症発生動向調査事業を実施するために必要な事項を定める。

第 2 対象感染症

本事業の対象とする感染症は次のとおりとする。

1 全数把握の対象

一類感染症

(1) エボラ出血熱、(2) クリミア・コンゴ出血熱、(3) 痘そう、(4) 南米出血熱、(5) ペスト、(6) マールブルグ病、(7) ラッサ熱

二類感染症

(8) 急性灰白髄炎、(9) 結核、(10) ジフテリア、(11) 重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 S A R S コロナウイルスであるものに限る。）、(12) 中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 M E R S コロナウイルスであるものに限る。）、(13) 鳥インフルエンザ（H5N1）、(14) 鳥インフルエンザ（H7N9）

三類感染症

(15) コレラ、(16) 細菌性赤痢、(17) 腸管出血性大腸菌感染症、(18) 腸チフス、(19) パラチフス

四類感染症

(20) E 型肝炎、(21) ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む。）、(22) A 型肝炎、(23) エキノコックス症、(24) 黄熱、(25) オウム病、(26) オムスク出血熱、(27) 回帰熱、(28) キャサナル森林病、(29) Q 熱、(30) 狂犬病、(31) コクシジオイデス症、(32) サル痘、(33) ジカウイルス感染症、(34) 重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 S F T S ウイルスであるものに限る。）、(35) 腎症候性出血熱、(36) 西部ウマ脳炎、(37) ダニ媒介脳炎、(38) 炭疽、(39) チクングニア熱、(40) つつが虫病、(41) デング熱、(42) 東部ウマ脳炎、(43) 鳥インフルエンザ（H5N1 及び H7N9 を除く。）、(44) ニパウイルス感染症、(45) 日本紅斑熱、(46) 日本脳炎、(47) ハンタウイルス肺症候群、(48) B ウイルス病、(49) 鼻疽、(50) ブルセラ症、(51) ベネズエラウマ脳炎、(52) ヘンドラウイルス感染症、(53) 発しんチフス、(54) ボツリヌス症、(55) マラリア、(56) 野兎病、(57) ライム病、(58) リッサウイルス感染症、(59) リフトバレー熱、(60) 類鼻疽、(61) レジオネラ症、(62) レプトスピラ症、(63) ロッキー山紅斑熱

五類感染症（全数）

(64)アメーバ赤痢、(65)ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）、(66)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、(67)急性弛緩性麻痺（ポリオを除く。）、(68)急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）、(69)クリプトスポリジウム症、(70)クロイツフェルト・ヤコブ病、(71)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(72)後天性免疫不全症候群 (73)ジアルジア症、(74)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(75)侵襲性髄膜炎菌感染症、(76)侵襲性肺炎球菌感染症、(77)水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）、(78)先天性風しん症候群、(79)梅毒、(80)播種性クリプトコックス症、(81)破傷風、(82)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(83)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(84)百日咳、(85)風しん、(86)麻しん、(87)薬剤耐性アシネトバクター感染症

新型インフルエンザ等感染症

(112)新型インフルエンザ、(113)再興型インフルエンザ、(114)新型コロナウイルス感染症、(115)再興型新型コロナウイルス感染症

指定感染症

該当なし

2 定点把握の対象

五類感染症（定点）

(88)RSウイルス感染症、(89)咽頭結膜熱、(90)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(91)感染性胃腸炎、(92)水痘、(93)手足口病、(94)伝染性紅斑、(95)突発性発しん、(96)ヘルパンギーナ、(97)流行性耳下腺炎、(98)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）、(99)急性出血性結膜炎、(100)流行性角結膜炎、(101)性器クラミジア感染症、(102)性器ヘルペスウイルス感染症、(103)尖圭コンジローマ、(104)淋菌感染症、(105)クラミジア肺炎（オウム病を除く。）、(106)細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）、(107)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(108)マイコプラズマ肺炎、(109)無菌性髄膜炎、(110)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(111)薬剤耐性緑膿菌感染症

法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(116)発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般的に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの。

3 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象

二類感染症

(13)鳥インフルエンザ (H5N1)

第3 実施主体

実施主体は、健康福祉局健康安全課（以下「健康福祉局」という。）、衛生研究所及び各区福祉保健センター（以下「福祉保健センター」という。）とする。

第4 実施体制の整備

1 横浜市感染症情報センター

地方感染症情報センターとして横浜市感染症情報センター（以下「感染症情報センター」という。）を、衛生研究所感染症・疫学情報課内に設置する。感染症情報センターは、横浜市内における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、健康福祉局及び福祉保健センターへ報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開する。

2 指定届出機関及び指定提出機関（定点）

(1) 健康福祉局は、定点把握対象の感染症について、患者情報及び疑似症情報を収集するため、法第14条第1項に規定する指定届出機関として、患者定点及び疑似症定点をあらかじめ選定し、神奈川県へ進達する。

(2) 健康福祉局は、定点把握対象の五類感染症について、患者の検体又は当該感染症の病原体（以下、「検体等」という。）を収集するため、病原体定点をあらかじめ選定し、神奈川県へ進達する。なお、法施行規則第7条の2に規定する五類感染症については、法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として、病原体定点を選定し、神奈川県へ進達する。

3 横浜市感染症発生動向調査委員会

横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的・効率的な運用を図るため、疫学等の専門家、福祉保健センター及び衛生研究所の代表、医師会の代表等からなる横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「感染症委員会」という。）を置く。

感染症委員会の事務局は感染症情報センター及び健康福祉局とし、感染症委員会の運営については、横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱に定める。

4 検査施設

横浜市内における本事業に係る検体等の検査については、横浜市衛生研究所の検査施設（以下、「衛生研究所」という。）において、実施する。衛生研究所は、「検査施設における病原体等の検査の業務管理要領」（健感発 1117 第2号平成27年11月27日厚生労働省健康局結核感染症課長通知。以下「病原体検査要領」という。）に基づき検査を実施し、検査の信頼性確保に努めることとする。

また、健康福祉局は、横浜市内における検査が適切に実施されるよう施設間の役割を調整する。

第5 事業の実施

- 1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症（第2の（114）及び（115）を除く）、指定感染症及び全数把握対象の五類感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

国要綱に定めるとおりとする。

イ 検体等を所持している医療機関等

福祉保健センター等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供について、依頼又は命令を受けた場合にあっては、検体等について、別記様式1「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）」（以下、別記様式1という。）の検査票を添付して提供する。

ウ 福祉保健センター

- (ア) 届出を受けた福祉保健センターは、速やかに国が定める届出基準を参照し、届出の内容が合致するかどうか点検を行う。記載もれや不明な点は、届出を行った医師に確認し、必要に応じて補記・補正を行い、発生届を感染症情報センター及び健康福祉局に送付する。
- (イ) 福祉保健センターは、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の衛生研究所への提供について、別記様式1を添付して依頼等する。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所及び健康福祉局と協議する。
- (ウ) 福祉保健センターは、検体等の提供を受けた場合には、別記様式1を添付して、衛生研究所へ検査を依頼するものとする。
- (エ) 福祉保健センターは、カ(ア)により衛生研究所から検体等の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式1等により速やかに送付する。
- (オ) なお、迅速な対応が必要な疾患については、健康福祉局と協議の上、対応する。

エ 健康福祉局

- (ア) 健康福祉局は、福祉保健センターからウ(ア)による送付があった場合は、直ちに、感染症情報センターと連絡もれがないか等、確認する。
- (イ) 健康福祉局は、届出を受けた感染症にかかる発生状況や感染症情報センターから提供のあった患者情報及び病原体情報等について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。
- (ウ) 感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。
- (エ) 緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報収集を行うとともに、国及び都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。
- (オ) 迅速な対応が必要と保健所長が定める疾患については、福祉保健センターが行う

ウ(イ)から(エ)までの対応は、健康福祉局が行う。

- (カ) 健康福祉局は横浜市外に居住する者について、法第 12 条第 1 項の規定による届出を受けたときは、該当届出の内容を、その居住地を管轄する都道府県等に通報する。
- (キ) 健康福祉局は厚生労働省に対して、法第 12 条第 1 項の規定による届出の一連の事務の中で同条第 2 項の報告を行う場合、または、法第 15 条の規定による積極的疫学調査の一連の事務の中で、同条第 13 項の報告を行う場合は併せて神奈川県へ報告する。
- (ク) 健康福祉局は横浜市外における感染症のまん延を防止するために必要な場合は、法第 15 条の規定による積極的疫学調査の結果を当該都道府県等へ通報する。
- (ケ) (キ)の法第 12 条の規定による報告について、感染症発生動向調査システムにより相互に情報を閲覧できる措置を講じることで、厚生労働省及び神奈川県へ当該報告をしたものとみなす。

オ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、福祉保健センターからウ(ア)による送付があった場合は、直ちに、届出情報の確認を行い、届出内容を感染症発生動向調査システムに入力する。届け出た情報について医療機関に確認が必要な場合には健康福祉局または福祉保健センターへ情報提供を行う。
- (イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

カ 衛生研究所

- (ア) 衛生研究所は、別記様式 1 及び検体等が送付された場合にあっては、別に定める病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を福祉保健センターを経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式 1 により福祉保健センター、健康福祉局、感染症情報センターに送付する。また、感染症発生動向調査に必要な項目をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。
- (イ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (ウ) 衛生研究所は、患者が一類感染症と診断されている場合、横浜市域を超えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

2 (114)新型コロナウイルス感染症、(115)再興型新型コロナウイルス感染症

(1)調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

国要綱に定めるとおりとする。当該届出は、新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（以下「HER-SYS」という。）への入力を基本とする。入力環境がない場合には所定の様式に記入して最寄りの福祉保健センターへ提出する。

イ 検体を所持している医療機関等

福祉保健センター等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供について、依頼又は命令を受けた場合にあっては、検体等について、別記様式1「一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票（病原体）」（以下、別記様式1という。）の検査票を添付して提供する。

ウ 福祉保健センター

(ア) 届出を受けた福祉保健センターは、速やかに国が定める届出基準を参照し、届出の内容が合致するかどうか点検を行う。記載もれや不明な点は、届出を行った医師に確認し、必要に応じて補記・補正を行い、発生届を感染症情報センター及び健康福祉局に送付する。

(イ) 福祉保健センターは、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の衛生研究所への提供について、別記様式1を添付して依頼等する。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所及び健康福祉局と協議する。

(ウ) 福祉保健センターは、検体等の提供を受けた場合には、別記様式1を添付して、衛生研究所へ検査を依頼するものとする。

(エ) 福祉保健センターは、カ(ア)により衛生研究所から検体等の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式1等により速やかに送付する。

(オ) なお、迅速な対応が必要な場合は、健康福祉局と協議の上、対応する。

エ 健康福祉局

(ア) 健康福祉局は、福祉保健センターからウ(ア)による送付があった場合は、直ちに、感染症情報センターと連絡もれがないか等、確認する。

(イ) 健康福祉局は、届出を受けた感染症にかかる発生状況や感染症情報センターから提供のあった患者情報及び病原体情報等について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。

(ウ) 感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。

(エ) 緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報収集を行うとともに、国及び都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

(オ) 迅速な対応が必要と保健所長が判断した場合は、福祉保健センターが行うウ(イ)から(エ)までの対応は、健康福祉局が行う。

(カ) 健康福祉局は横浜市外に居住する者について、法第12条第1項の規定による届出を受けたときは、該当届出の内容を、その居住地を管轄する都道府県等に通報する。

(キ) 健康福祉局は厚生労働省に対して、法第12条第1項の規定による届出の一連の事務

の中で同条第 2 項の報告を行う場合、または、法第 15 条の規定による積極的疫学調査の一連の事務の中で、同条第 13 項の報告を行う場合は併せて神奈川県へ報告する。

- (ク) 健康福祉局は横浜市外における感染症のまん延を防止するために必要な場合は、法第 15 条の規定による積極的疫学調査の結果を当該都道府県等へ通報する。
- (ケ) (カ)から(ク)の法第 12 条の規定による報告について、HER-SYS により相互に情報を閲覧できる措置を講じることで、厚生労働省及び神奈川県へ当該報告をしたものとみなす。

オ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、福祉保健センターからウ(ア)による送付があった場合は、直ちに、届出情報の確認を行い、届出内容を HER-SYS に入力する。また、診断した医師が届け出た情報を確認する。届け出た情報について医療機関に確認が必要な場合には健康福祉局または福祉保健センターへ情報提供を行う。
- (イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。ただし、健康福祉局及び福祉保健センターで記者発表を行う場合には、その内容をもって関係機関に提供・公開したものとす。

カ 衛生研究所

- (ア) 衛生研究所は、別記様式 1 及び検体等が送付された場合にあつては、別に定める病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を福祉保健センターを経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式 1 により福祉保健センター、健康福祉局、感染症情報センターに送付する。
- (イ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (ウ) 衛生研究所は、横浜市域を超えた感染症の集団発生があつた場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあつては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

キ 病原体検査を行政検査として委託されている医療機関

病原体検査を行政検査として委託されている医療機関は、健康安全課等に必要な情報共有を行うこと。

3 定点把握対象の五類感染症

- (1) 対象とする感染症の状態
 - 国要綱に定めるとおりとする。
- (2) 定点の選定
 - ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、行政区ごとに医療機関の中から患者定点を選定する。

なお、患者定点の種類、その対象疾患及び定点数については、行政区人口を保健所管内人口とみなして国要綱に定めるとおりとする。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、健康福祉局は、医師会等の協力を得て原則として、患者定点として選定された医療機関の中から病原体定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるように考慮する。

なお、病原体定点の種類、その対象疾患及び定点数については、保健所管内人口について国要綱に定めるとおりとする。

(3) 調査単位等

国要綱に定めるとおりとする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、国が定める報告基準により、患者発生状況の把握を行う。

(イ) 2の(ア)により選定された定点把握対象の指定医療機関においては、国が定める基準及び様式に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等を記載する。

(ウ) (イ)の患者発生状況等の情報については、指定された方法により福祉保健センター又は感染症情報センターへ報告する。

イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として選定された医療機関は、必要に応じて病原体検査のために検体等を採取する。

(イ) 病原体定点は、検体等について、別記様式2「病原体定点からの検査依頼書」(以下、「別記様式2」という。)を添えて、速やかに衛生研究所へ送付する。

(ウ) (2)のイにより選定された小児科病原体定点においては、第2の(88)から(97)について、調査単位ごとに、概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類を送付する。

(エ) (2)のイにより選定されたインフルエンザ病原体定点においては、第2の(98)に掲げるインフルエンザ(インフルエンザ様疾患を含む。)について、調査単位ごとに、少なくとも1検体を採取し、衛生研究所と協議のもと、健康福祉局の定める単位ごとに送付するものとする。

ウ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合に当たっては、検体等について、保健所に協力し、別記様式 1 を添付して提供する。

エ 福祉保健センター

- (ア) 福祉保健センターは、ア(ウ)により定点把握対象の指定医療機関から得られた患者情報を、調査単位が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の 3 日までに、感染症情報センターへ送付し、併せて、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報についても、感染症情報センター及び健康福祉局へ報告する。また、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について、別記様式 1 を添付して依頼するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生研究所及び健康福祉局と協議する。
- (イ) 福祉保健センターは、検体等の提供を受けた場合には、別記様式 1 を添付して衛生研究所へ検査を依頼するものとする。
- (ウ) 福祉保健センターは、カ(ア)により衛生研究所から検体等の検査結果の通知があった場合は、診断した医師に別記様式 1 により速やかに送付する。

オ 健康福祉局

健康福祉局は、感染症情報センターから情報提供のあった患者情報及び病原体情報について、必要に応じ、市内の関係機関に情報提供し連携を図る。

また、感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

カ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、患者定点又は福祉保健センターから患者情報の報告があり次第、届出情報の確認を行い、感染症発生動向調査システムに入力する。
- (イ) 感染症情報センターは、横浜市域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

キ 衛生研究所

- (ア) 衛生研究所は、イ(イ)により別記様式 2 及び検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を病原体情報として、別記様式 2 により病原体定点に通知するとともに、健康福祉局及び感染症情報センターに送付する。感染症発生動向調査に必要な病原体情報をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。
- (イ) 衛生研究所は、エ(イ)により別記様式 1 及び検体等が送付された場合にあっては、

病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を福祉保健センターを経由して、診断した医師に通知するとともに、別記様式1により福祉保健センター、健康福祉局、感染症情報センターに送付する。また、感染症発生動向調査に必要な項目をコンピュータ・オンラインシステムにより、速やかに中央感染症情報センターへ報告する。

- (ウ) 検査のうち、衛生研究所において実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (エ) 衛生研究所は、横浜市域を超えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

4 法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする疑似症の状態

国要綱に定めるとおりとする。

(2) 疑似症定点の選定

疑似症の発生状況を把握するため、健康福祉局は、横浜市全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮し、医師会等の協力を得て、医療機関の中から疑似症定点を選定する。

(3) 実施方法

ア 疑似症定点

- (ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時において、国が定める届出基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行う。
- (イ) (2)により選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、国が定める基準に従い、直ちに疑似症発生状況等を記載する。なお、当該疑似症の届出については、原則として汎用サーベイランスシステムへの入力により実施することとする。
- (ウ) (イ)の届出に当たっては法施行規則第7条に従い行う。

イ 健康福祉局

健康福祉局は、疑似症の発生状況等を把握し、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

また、感染症情報センターが収集、分析した疑似症情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び都道府県とも連携の上、迅速な対応を行う。

ウ 感染症情報センター

- (ア) 感染症情報センターは、疑似症定点において汎用サーベイランスシステムへの入力を実施することができない場合は、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、汎用サーベイランスシステムに入力するものとする。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報についても、健康福祉局および中央感染症情報センターへ報告する。

- (イ) 感染症情報センターは、横浜市内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される都道府県情報、全国情報と併せて、健康福祉局、福祉保健センター、指定医療機関その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に提供・公開する。

5 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の実施方法

(1) 福祉保健センター

鳥インフルエンザ（H5N1）に係る積極的疫学調査を実施した福祉保健センターは、国の定める基準に従い、関係書類を健康福祉局及び感染症情報センターに送付する。医療機関から検体等が提出される場合には、感染症情報センターに連絡した上で、医療機関から検体等を受け取り、衛生研究所へ搬入する。

(2) 感染症情報センター

ア 感染症情報センターは、(1)により得られた情報を、直ちに疑い症例調査支援システムに入力する。

イ 医療機関より検体等が提出される場合には、疑い症例調査支援システムが発行する検査依頼票を打ち出し、衛生研究所に送付する。

(3) 衛生研究所

ア 衛生研究所は、検査依頼票及び検体等が送付された場合にあつては、当該検体等を別に定める病原体検査要領に基づき検査し、その内容を直ちに感染症情報センターに送付する。

イ 鳥インフルエンザ（H5N1）に係る積極的疫学調査の結果を厚生労働省に報告する場合にあつては、法施行規則第9条第2項に従い、検体等を国立感染症研究所に送付する。検体等を送付する場合においては、(2)イにより感染症情報センターから送付された検査依頼票を添付する。

第6 その他

- 1 感染症発生動向調査のために取り扱うこととなった検体等について、感染症の発生及びまん延防止策の構築、公衆衛生の向上のために使用されるものであり、それ以外目的に用いてはならない。また、検体採取の際には、その使用目的について説明の上、できるだけ本人等に同意をとることが望ましい。なお、上記に掲げる目的以外の研究に使用する場合は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の別に定める規定に従い行うものとする。
- 2 本要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて健康福祉局長が定めることとする。

附 則

(施行期日)

- 1 この実施要綱は、平成 15 年 11 月 5 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 18 年 6 月 12 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 20 年 1 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 20 年 5 月 12 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 23 年 2 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要な

か所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 25 年 10 月 14 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 26 年 9 月 19 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 27 年 1 月 21 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 2 の 1 の対象感染症に係る改正については、平成 28 年 2 月 15 日から適用する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票で現に残存するものについては、当分の間、必要なか所を訂正した上、引き続きこれを使用することができる。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成 30 年 1 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の要綱の規定により調製した帳票は、当面の間、必要なか所を訂正した上、引き続き

これを使用することができる。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成 30 年 5 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和 2 年 2 月 1 日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和 2 年 7 月 21 日から施行する。

附 則

(施行期日)

この要綱は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

別記様式一覧表

別記様式 1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票

別記様式 2 病原体定点からの検査依頼書（3 枚複写式）

(医療機関控)

(衛生研究所控)

(医療機関あて検査結果通知用)

横浜市感染症発生動向調査委員会設置運営要綱

最近改正 平成 23 年 5 月 24 日 健健安第 304 号（局長決裁）

（設置）

第 1 条 横浜市内における感染症に関する情報の収集、分析の効果的、効率的な運用を図るため、横浜市感染症発生動向調査委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第 2 条 委員会は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号。以下「法」という。）第 16 条の規定に基づき、法第 12 条から第 15 条までの規定により収集した感染症に関する情報について分析を行い、感染症の予防のための情報を積極的に公表する。

（組織）

第 3 条 委員会は、委員 6 人以上 10 人以下をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから健康福祉局長が任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 横浜市医師会を代表する者
- (3) 福祉保健センター及び衛生研究所の代表

（委員の任期）

第 4 条 委員の任期は、3 年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

（委員長及び副委員長）

第 5 条 委員会に、委員長及び副委員長 1 人を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選によって定める。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（招集）

第 6 条 委員会の会議は、委員長が毎月 1 回、その他必要に応じて招集する。

（議事の運営）

第 7 条 委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。ただし、緊急その他やむを得ない理由があるときはこの限りでない。

(関係者の出席等)

第8条 委員長は、委員会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求めてその意見若しくは説明を聴き、又は関係者から必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、健康福祉局において処理する。

(その他)

第10条 本要綱に定める他、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成14年1月1日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱の施行後最初の委員会の会議は、衛生局長が招集する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年5月24日から施行する。

令和3年1月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告が高い値で続いています。
- インフルエンザは例年より報告数が少ないです。

◇ 全数把握の対象

〈1月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	5件
E型肝炎	4件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
アメーバ赤痢	4件	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
ウイルス性肝炎	1件	水痘(入院例に限る)	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	梅毒	5件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6件	-	-

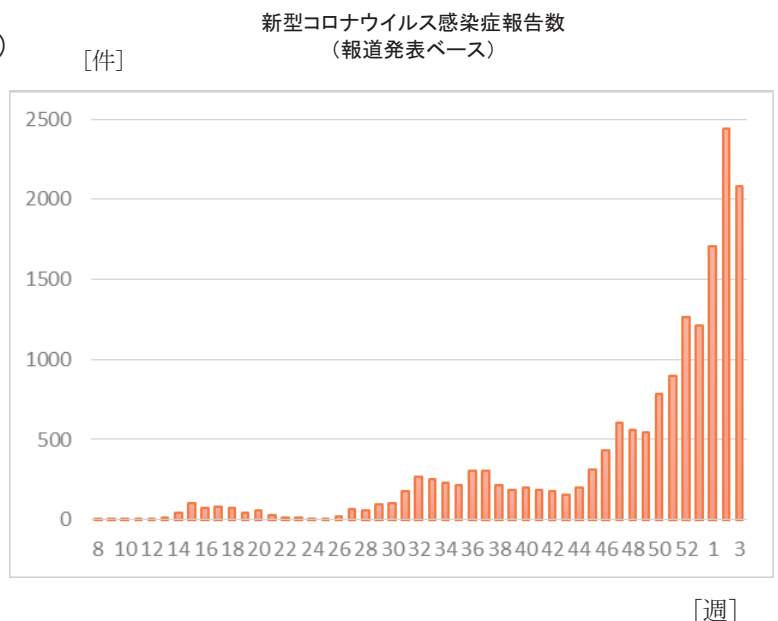
- 腸管出血性大腸菌感染症: O91が1件、O血清群不明が1件(ともに無症状病原体保有者)の報告がありました。感染経路等不明です。
- E型肝炎: 4件(うち無症状病原体保有者1件)の報告がありました。感染経路等不明です。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が4件あり、うち2件が性的接触による感染が推定されています。
- ウイルス性肝炎: B型の報告が1件ありました。性的接触による感染が推定されています。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 3件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群2件、B群3件、G群1件の報告がありました。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者が2件、AIDSが3件の報告がありました。いずれも男性で、性的接触(同性間4件、性別不詳1件)による感染が推定されています。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 40代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 10歳未満の報告が2件(ワクチン接種歴4回あり)、80歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。いずれも感染経路等不明です。
- 水痘(入院例に限る): 30歳代の検査診断例の報告が1件ありました。
- 梅毒: 無症状病原体保有者2件、早期顕症梅毒 I 期3件の報告がありました。いずれも男性で、うち4件が異性間性的接触による感染が推定されています。

◇ 指定感染症(新型コロナウイルス感染症)

第52週～第3週に横浜市から報道発表のありました症例は8704件でした。

横浜市内の新型コロナウイルスに感染した患者の発生状況

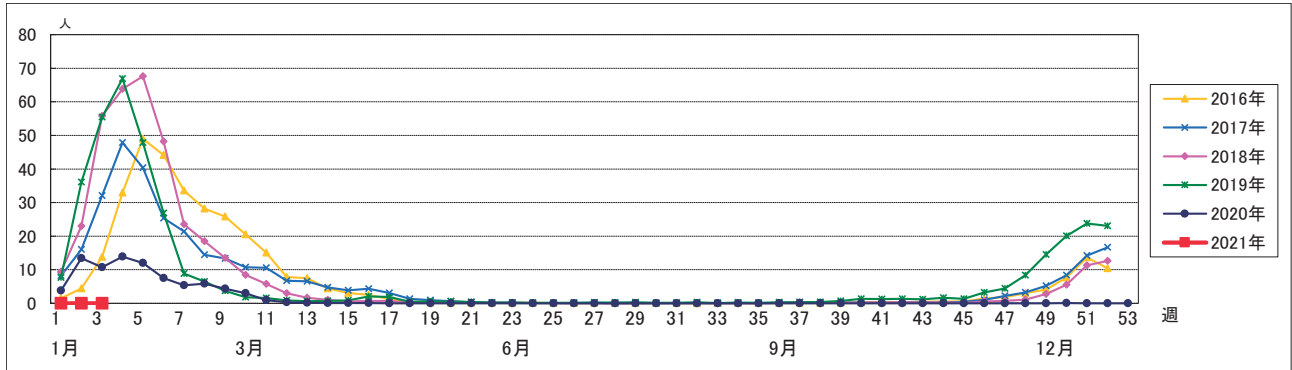
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/yobosesshu/kansensho/coronavirus/kanja.html>



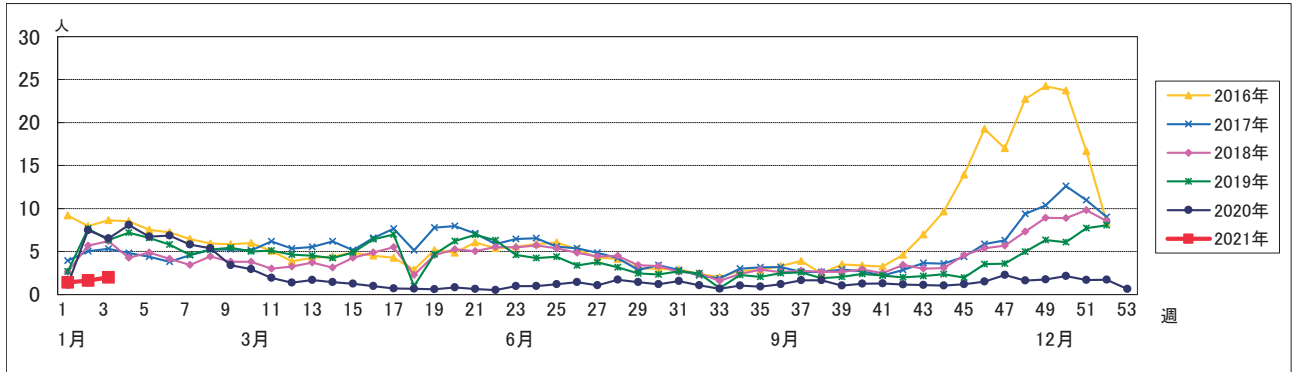
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第52週	12月21日～12月27日
第53週	12月28日～1月3日
第1週	1月4日～1月10日
第2週	1月11日～1月17日
第3週	1月18日～1月24日

1 インフルエンザ: 昨シーズンは2019年第40週で流行開始の目安(1.00)を上回り、第49週には流行注意報発令されましたが、今シーズンは例年より低めの報告数で推移しており、第3週は0.00です。



2 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第3週は1.99です。



3 性感染症(12月)

性器クラミジア感染症	男性:24件	女性:35件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:7件	女性:11件
尖圭コンジローマ	男性:5件	女性:9件	淋菌感染症	男性:16件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第52週	第53週	第1週	第2週	第3週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(12月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/>

令和3年2月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告数は減少傾向ですが、その速度は鈍化してきています。
- インフルエンザは例年より報告数が少ないです。
- 梅毒の報告がやや減少しています。

◇ 全数把握の対象

〈2月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件
E型肝炎	4件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
レジオネラ症	7件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	5件	梅毒	3件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	-	-

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O血清群不明1件、O128が1件(いずれも無症状病原体保有者)の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 2 E型肝炎: 4件(うち無症状病原体保有者1件)の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型5件、ポンティアック熱型2件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が5件あり、うち1件が性的接触による感染が推定されています。
- 5 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 3件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 6 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者が2件、AIDSが1件、その他が1件の報告がありました。うち3件が性的接触(同性間2件、異性間1件)による感染が推定されています。
- 7 侵襲性肺炎球菌感染症: 10歳未満が1件(ワクチン接種歴4回あり)、70歳代が1件(ワクチン接種歴不明)、90歳代が2件(1件がワクチン接種歴1回あり、1件がワクチン接種歴無)報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 8 水痘(入院例に限る): 50歳代の臨床診断例(ワクチン接種歴無)の報告が1件ありました。
- 9 梅毒: 早期顕症梅毒 I 期3件の報告がありました。いずれも男性で、うち2件が異性間性的接触による感染が推定されています。

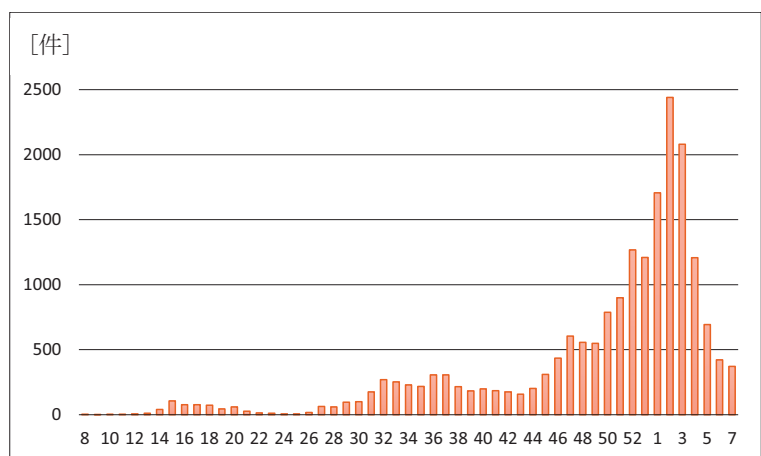
◇ 新型コロナウイルス感染症

第4週～第7週に横浜市から報道発表のありました症例は2,693件でした。

横浜市内の新型コロナウイルスに感染した患者の発生状況

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/yobosesshu/kansensho/coronavirus/kanja.html>

新型コロナウイルス感染症報告数
(報道発表ベース)

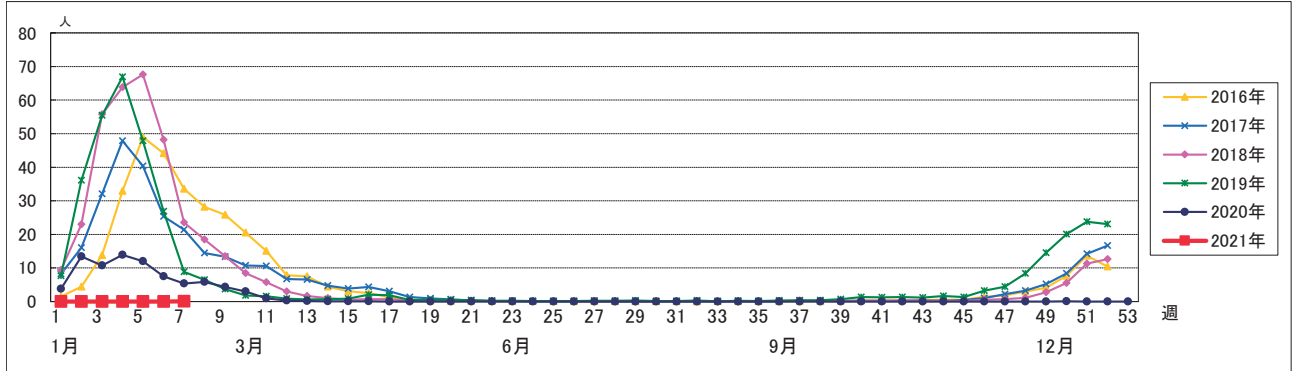


[週]

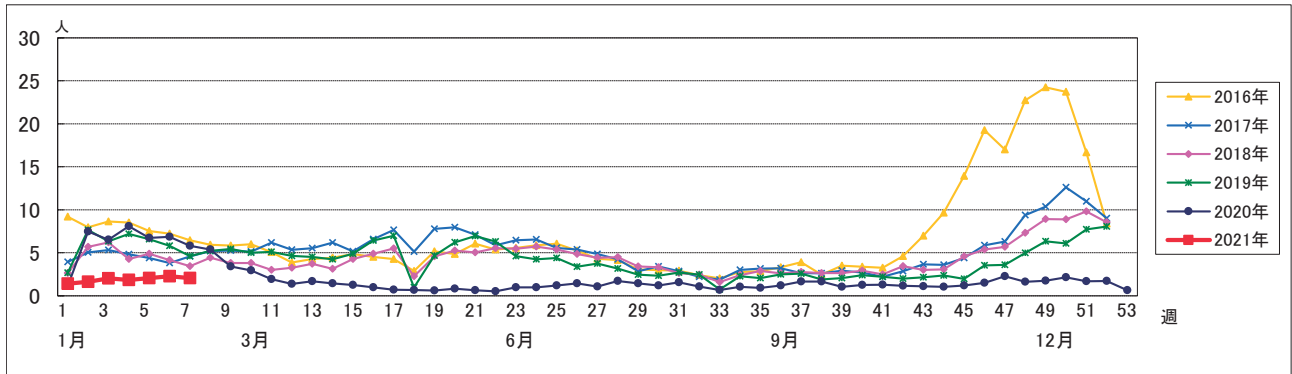
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第4週	1月25日～1月31日
第5週	2月1日～2月7日
第6週	2月8日～2月14日
第7週	2月15日～2月21日

1 インフルエンザ: 今シーズンは例年より低めの報告数で推移しており、第7週は0.02です。



2 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第7週は2.06です。



3 性感染症(1月)

性器クラミジア感染症	男性:17件	女性:23件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:3件	女性:14件
尖圭コンジローマ	男性:3件	女性:0件	淋菌感染症	男性:8件	女性:5件

4 基幹定点週報

	第4週	第5週	第6週	第7週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(1月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/>

令和3年3月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告が続いています。
- 定点把握対象疾患の多くが、例年より低めの報告数で推移しています。

◇ 全数把握の対象

〈3月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
E型肝炎	1件	梅毒	17件
A型肝炎	1件	播種性クリプトコックス症	1件
レジオネラ症	3件	風しん	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件	-	-

- 1 腸管出血性大腸菌感染症：O91(無症状病原体保有者)1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 2 E型肝炎：1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 3 A型肝炎：1件の報告がありました。ワクチン接種歴不明、感染経路等不明です。
- 4 レジオネラ症：肺炎型3件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 5 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症：4件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 6 劇症型溶血性レンサ球菌感染症：A群1件、B群1件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 7 梅毒：無症状病原体保有者9件、早期顕症梅毒Ⅰ期5件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件の報告がありました。男性13件、女性4件で、推定感染経路は、性的接触14件(異性間11件、同性間3件)、不明3件でした。
- 8 播種性クリプトコックス症：免疫不全によるものと推定される80歳代の報告が1件ありました。
- 9 風しん：20歳代の検査診断例の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。感染経路感染地域等不明です。

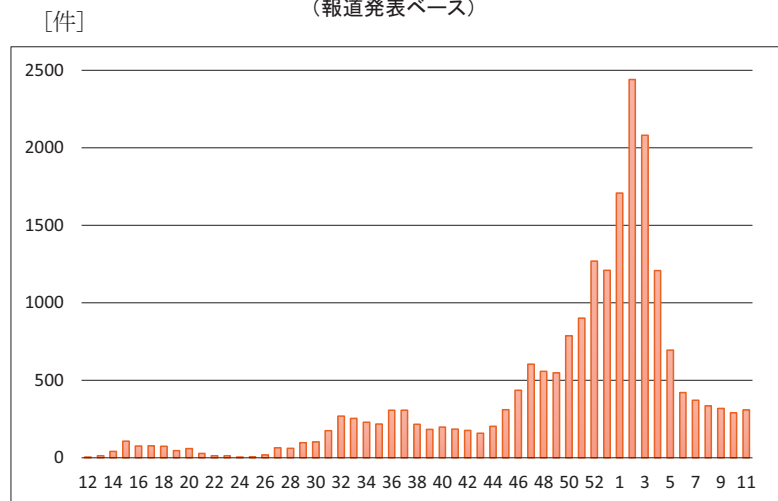
◇ 新型コロナウイルス感染症

第8週～第11週に横浜市から報道発表のありました症例は1,251件でした。

横浜市内の新型コロナウイルスに感染した患者の発生状況

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/yobosesshu/kansensho/coronavirus/kanja.html>

新型コロナウイルス感染症報告数
(報道発表ベース)

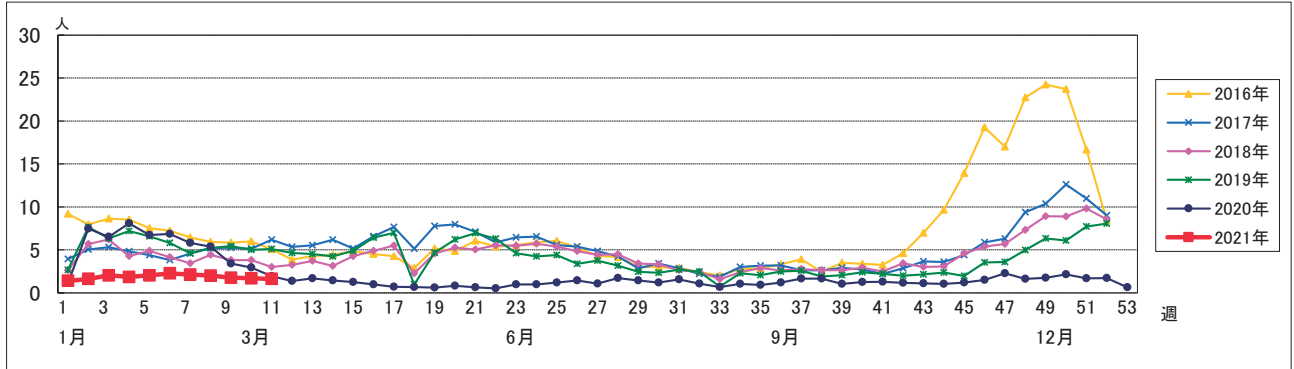


[週]

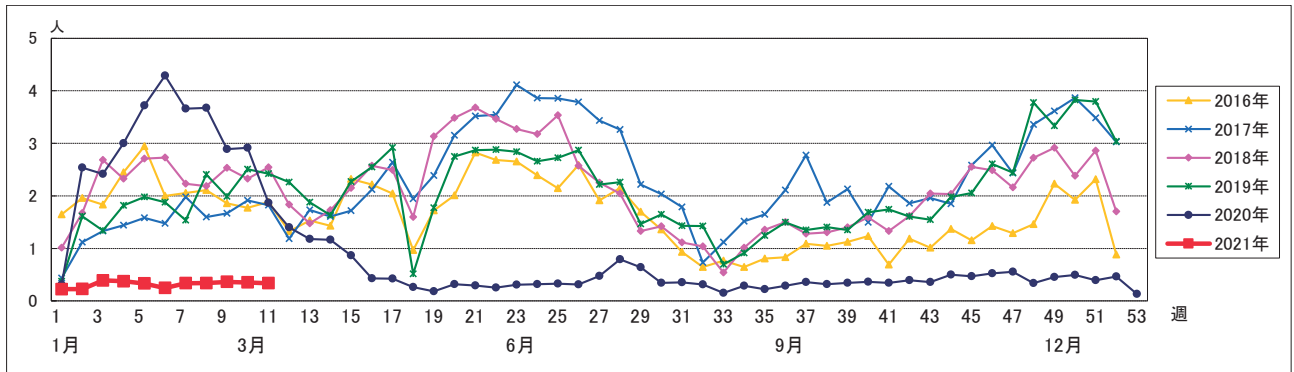
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第8週	2月22日～2月28日
第9週	3月1日～3月7日
第10週	3月8日～3月14日
第11週	3月15日～3月21日

1 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第11週は1.61です。



2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第11週は0.34です。



3 性感染症(2月)

性器クラミジア感染症	男性:27件	女性:33件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:1件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性:6件	女性:0件	淋菌感染症	男性:12件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第8週	第9週	第10週	第11週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.33	0.00

5 基幹定点月報(2月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/>

令和3年4月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告数が増加する傾向にあります。
- 梅毒の報告が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈4月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
レジオネラ症	1件	梅毒	11件
ウイルス性肝炎	1件	播種性クリプトコックス症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1件	破傷風	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件	百日咳	1件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件	-	-

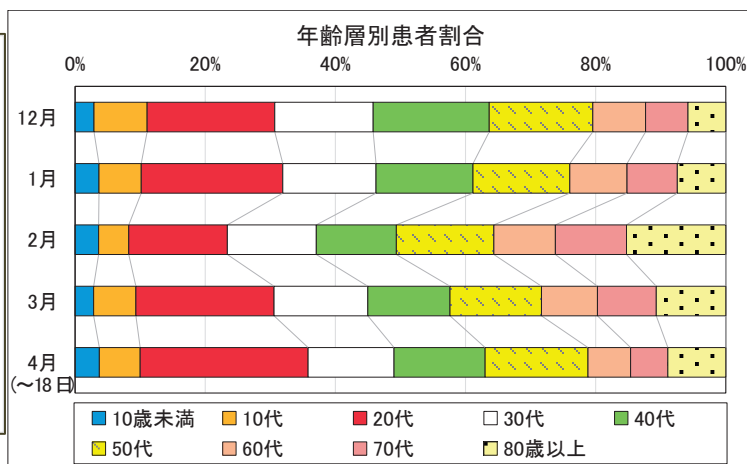
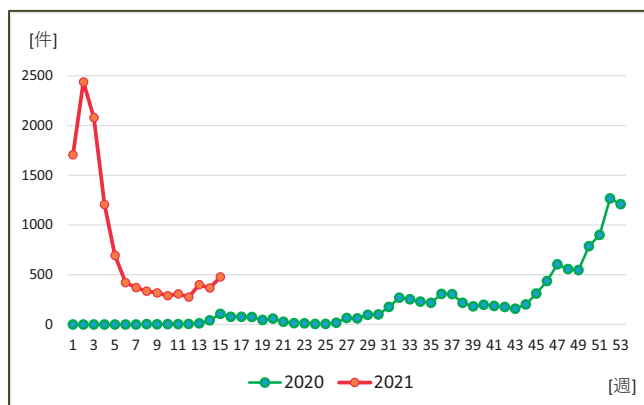
- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157が2件(うち1件が無症状病原体保有者)、O103が1件(無症状病原体保有者)報告されました。
- 2 レジオネラ症: 肺炎型1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 3 ウイルス性肝炎: B型肝炎の報告が1件ありました。ワクチン接種歴無で、性的接触(同性間、異性間)による感染が推定されています。
- 4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 5 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群1件の報告がありました。創傷感染が推定されています。
- 6 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDSが1件、その他が1件の報告がありました。いずれも男性で、同性間性的接触による感染が推定されています。
- 7 侵襲性肺炎球菌感染症: 10歳未満の報告が1件(ワクチン接種歴4回)、70歳代の報告が3件(ワクチン接種歴無が1件、不明が2件)ありました。
- 8 梅毒: 無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒Ⅰ期1件、早期顕症梅毒Ⅱ期7件の報告がありました。男性5件、女性6件で、推定感染経路は、性的接触8件(異性間7件、同性間1件)、不明3件でした。
- 9 播種性クリプトコックス症: 免疫不全によるものと推定される30歳代の報告が1件ありました。
- 10 破傷風: 60歳代の報告が1件(ワクチン接種歴無)ありました。針等の鋭利なものの刺入による感染が推定されています。
- 11 百日咳: 10歳代の報告が1件(ワクチン接種歴4回)ありました。

◇ 新型コロナウイルス感染症

第12週～第15週に横浜市から報道発表のありました症例は1,522件でした。

◆ 横浜市内の陽性患者の発生状況データ・相談件数

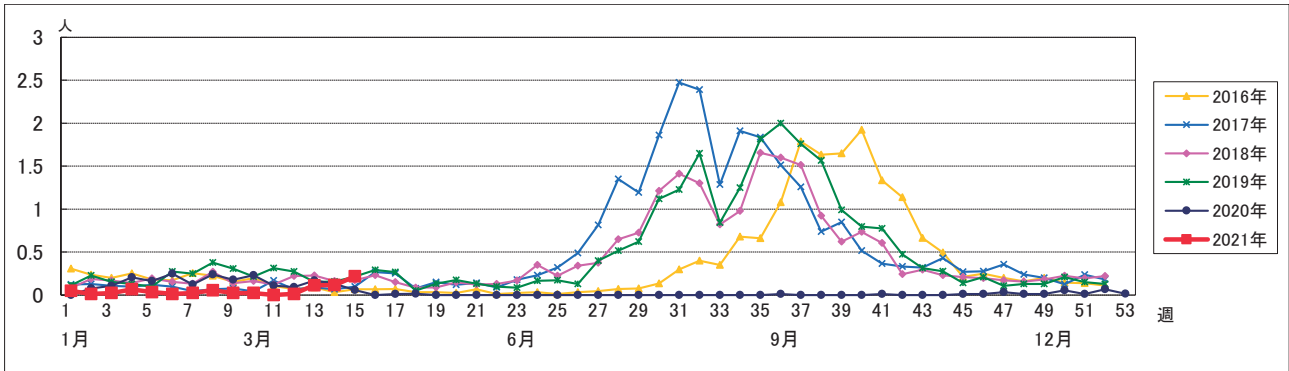
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/yobosesshu/kansensho/coronavirus/corona-data.html>



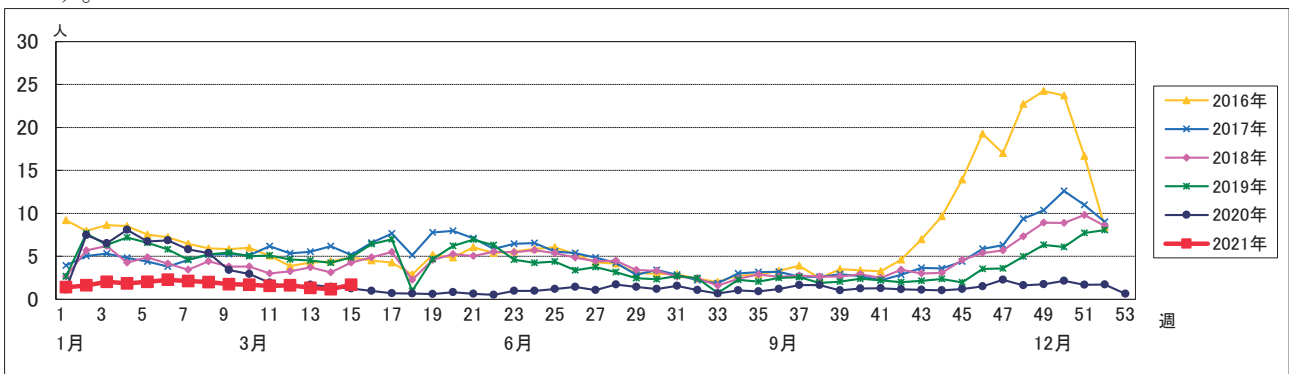
報告週対応表	
第12週	3月22日～ 3月28日
第13週	3月29日～ 4月 4日
第14週	4月 5日～ 4月11日
第15週	4月12日～ 4月18日

◇ 定点把握の対象：

1 RSウイルス感染症：例年より低めの報告数で推移していましたが、第15週の定点あたりの報告数は0.22です。



2 感染性胃腸炎：例年より低めの報告数で推移しています。第15週の定点あたりの報告数は1.69です。



3 性感染症(3月)

性器クラミジア感染症	男性:21件	女性:32件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 6件	女性: 5件
尖圭コンジローマ	男性: 3件	女性: 6件	淋菌感染症	男性:17件	女性: 1件

4 基幹定点週報

	第12週	第13週	第14週	第15週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(3月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/>

令和3年5月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告数が多い状態が続いています。
- RSウイルス感染症が増加しており、今後の動向に注意が必要です。
- 梅毒の報告が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈5月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	7件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件
レジオネラ症	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
アメーバ赤痢	1件	梅毒	9件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2件	破傷風	1件
急性脳炎	1件	-	-

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157が2件、O91が1件(無症状病原体保有者)、O8が1件(無症状病原体保有者)、O不明が3件(うち2件が無症状病原体保有者)報告されました。
- 2 E型肝炎: 2件(いずれも無症状病原体保有者)の報告がありました。感染経路等不明です。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型3件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 5 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 2件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 6 急性脳炎: 10歳未満の報告が1件(病原体はHSV-2、垂直感染疑い)ありました。
- 7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: G群1件の報告がありました。飛沫感染が推定されています。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): いずれも男性で、AIDSが1件(感染経路等不明)、無症状病原体保有者2件(性的接触(同性間1件、詳細不明1件)による)報告がありました。
- 9 侵襲性肺炎球菌感染症: 20歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)、70歳代の報告が2件(いずれもワクチン接種歴無)ありました。
- 10 梅毒: 無症状病原体保有者1件、早期顕症梅毒Ⅰ期2件、早期顕症梅毒Ⅱ期6件の報告がありました。男性7件、女性2件で、推定感染経路は、性的接触8件(異性間7件、性別不詳1件)、不明1件でした。
- 11 破傷風: 80歳代の報告が1件(ワクチン接種歴無)ありました。

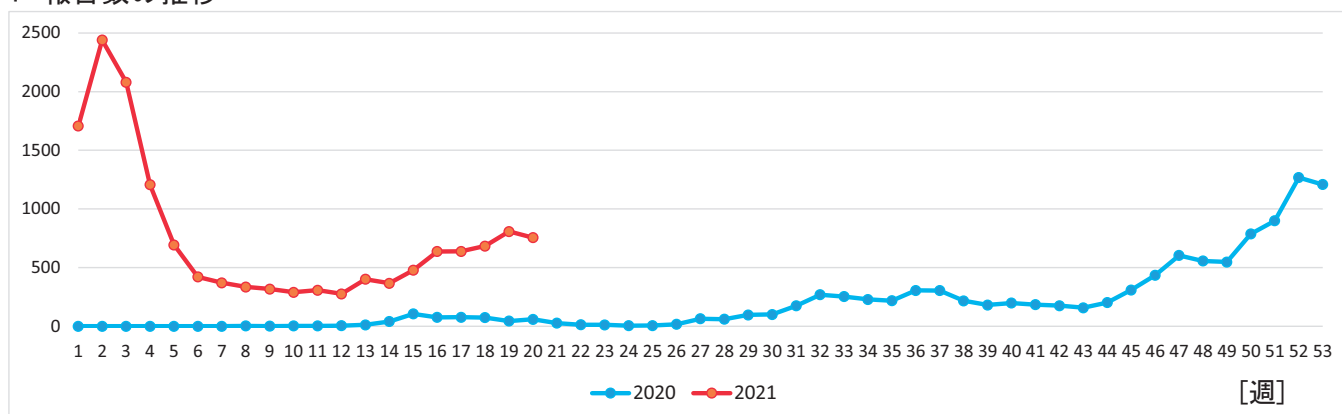
◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

第16週～第20週に横浜市から報道発表のありました症例は3,525件でした。

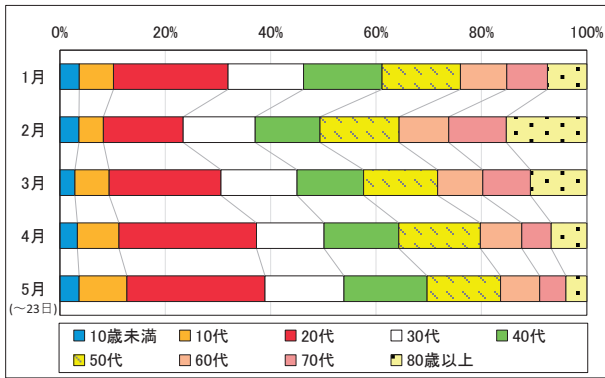
◆ 横浜市内の陽性患者の発生状況データ・相談件数

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryoyobosesshu/kansensho/coronavirus/corona-data.html>

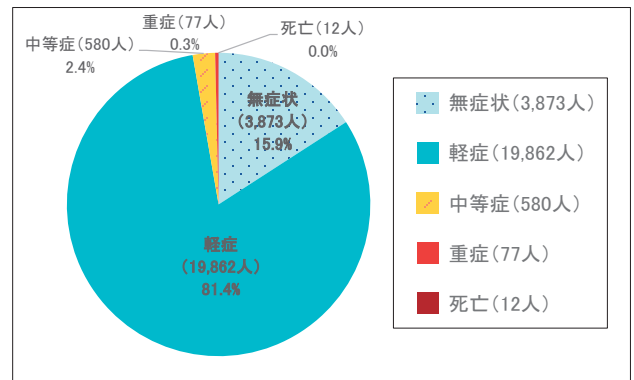
1 報告数の推移



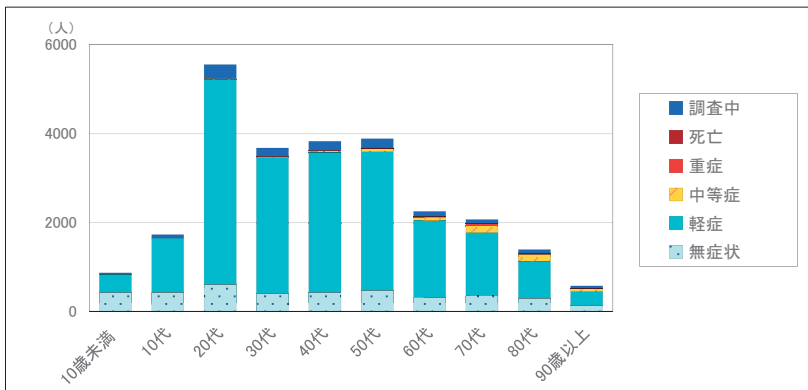
2 年齢別割合



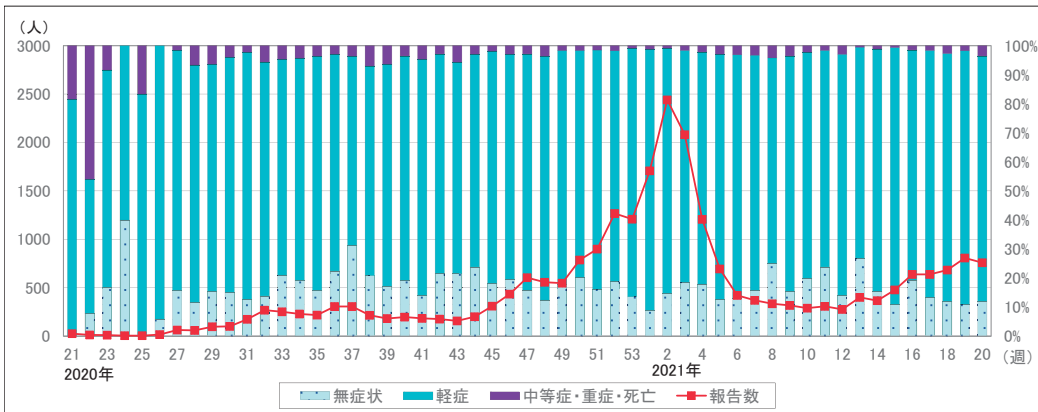
3 陽性確定時の症状の割合



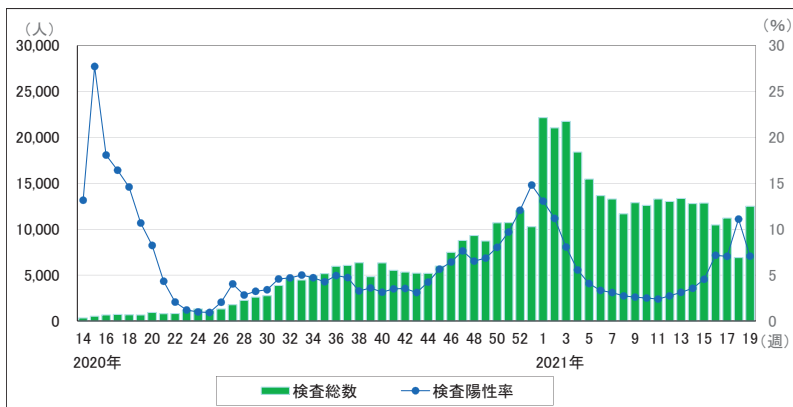
4 陽性確定時の症状別人数(年代別)



5 報告数と届出時点の症状



6 市内における新型コロナウイルス検査実施状況



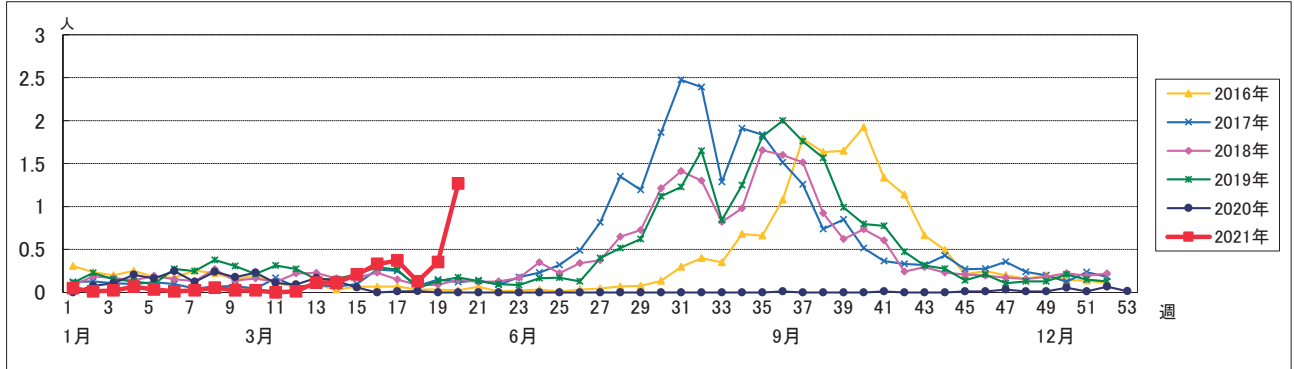
7 変異株の検出状況

神奈川県 新型コロナウイルス感染症による患者確認について
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/prs/r7391113.html>

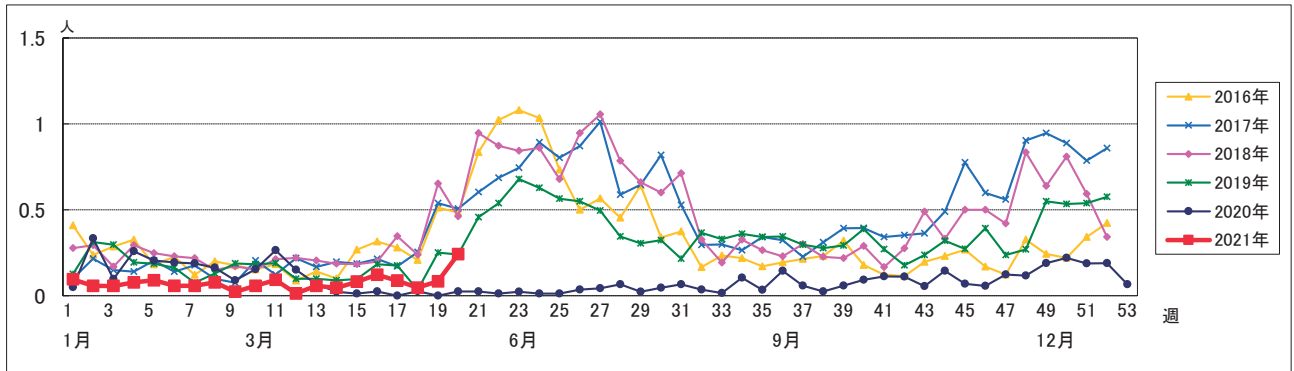
報告週対応表	
第16週	4月19日～4月25日
第17週	4月26日～5月2日
第18週	5月3日～5月9日
第19週	5月10日～5月16日
第20週	5月17日～5月23日

◇ 定点把握の対象:

1 RSウイルス感染症: 第16週は0.33、第17週は0.37と増加し、第20週は1.27でした。



2 咽頭結膜熱: 2021年は0.1未満で推移していましたが、第16週は0.12、第20週は0.24でした。



3 性感染症(4月)

性器クラミジア感染症	男性:21件	女性:13件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:4件	女性:13件
尖圭コンジローマ	男性:5件	女性:2件	淋菌感染症	男性:12件	女性:4件

4 基幹定点週報

	第16週	第17週	第18週	第19週	第20週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.66
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(4月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/>

令和3年6月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告数は、第19週(5月10日～16日)以降漸減傾向です。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告数が増えています。
- RSウイルス感染症の流行開始時期が例年より早く、報告数が急増しています。2003年調査開始以降、もっとも報告数が多くなっています。(臨時情報を発出します。)

◇ 全数把握の対象

〈6月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	68件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
レジオネラ症	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
アメーバ赤痢	1件	水痘(入院例に限る)	1件
ウイルス性肝炎	3件	梅毒	12件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7件	破傷風	1件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157が4件、O168が1件(無症状病原体保有者)、O111が58件(うち10件が無症状病原体保有者)、O不明が5件(すべて無症状病原体保有者)の報告がありました。O111では同一集団内での報告がありました。
- 2 E型肝炎: 1件(無症状病原体保有者)の報告がありました。感染経路等不明です。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型2件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症1件の報告がありました。異性間性的接触による感染が推定されています。
- 5 ウイルス性肝炎: B型の報告が2件、EBVの報告が1件ありました。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 7件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群1件の報告がありました。創傷感染が推定されています。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): いずれも男性で、AIDS1件(異性間性的接触による)、無症状病原体保有者1件(同性間性的接触による)報告がありました。
- 9 侵襲性肺炎球菌感染症: 70歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)、80歳代の報告が2件(ワクチン接種歴無が1件、ワクチン接種歴1回有が1件)ありました。
- 10 水痘(入院例に限る): 60歳代の臨床診断例の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 11 梅毒: 早期顕症梅毒 I 期6件、早期顕症梅毒 II 期5件、晩期顕症梅毒1件の報告がありました。男性10件、女性2件で、性的接触(異性間9件、同性間2件、詳細不明1件)による感染が推定されています。
- 12 破傷風: 60歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。

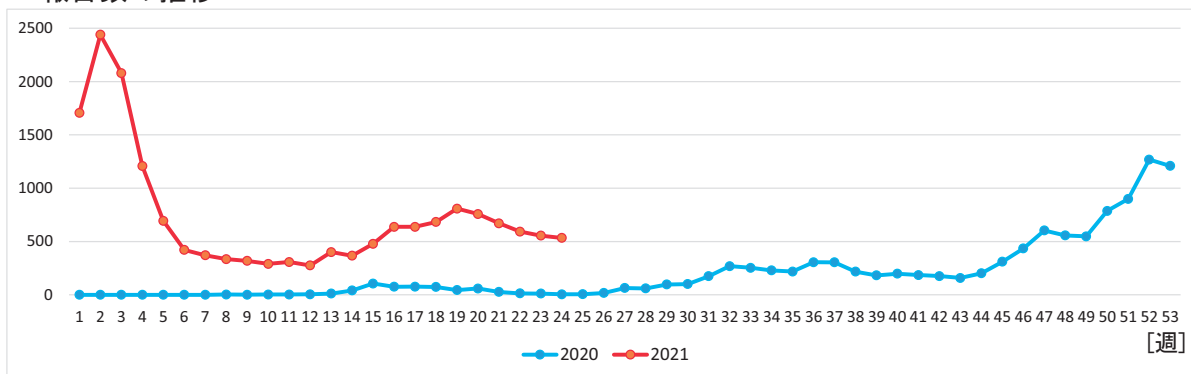
◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

第21週～第24週に横浜市から報道発表のありました症例は2353件でした。

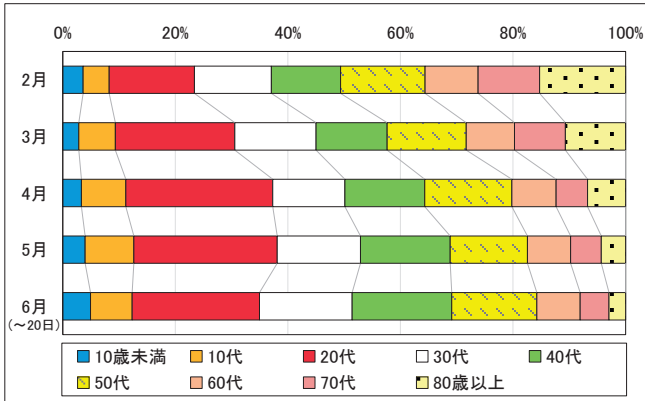
◆ 横浜市内の陽性患者の発生状況データ・相談件数

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/yobosesshu/kansensho/coronavirus/corona-data.html>

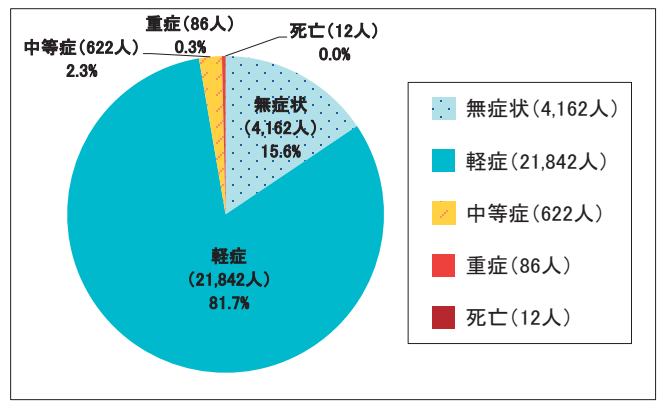
1 報告数の推移



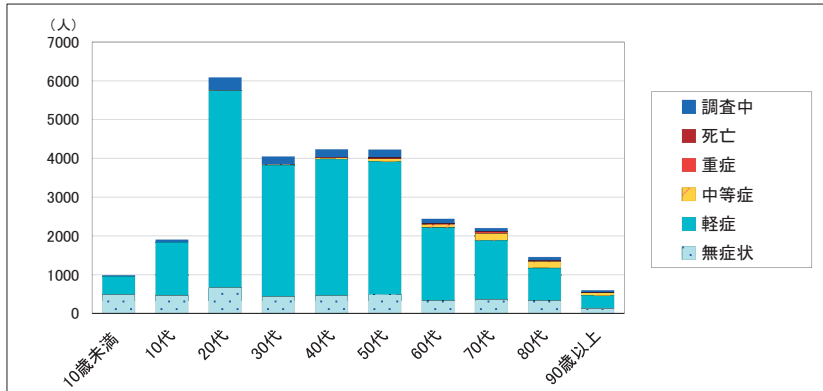
2 年齢別割合



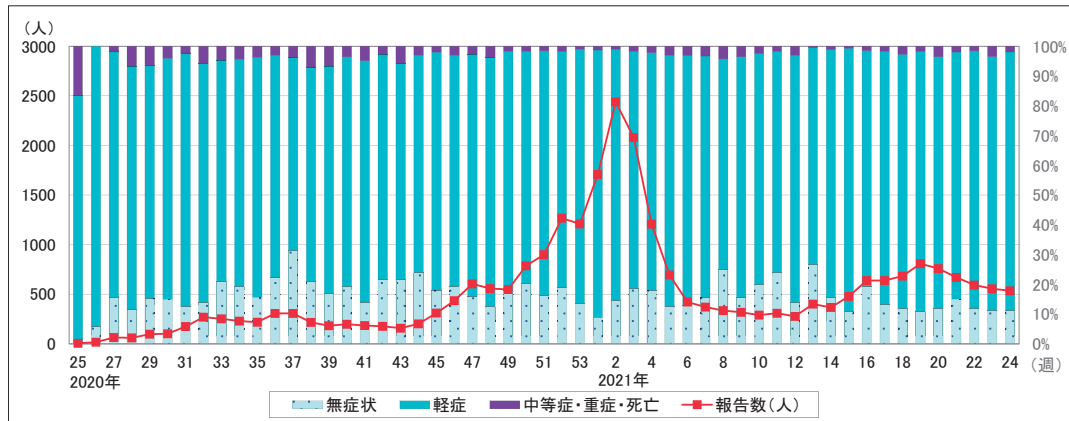
3 陽性確定時の症状の割合



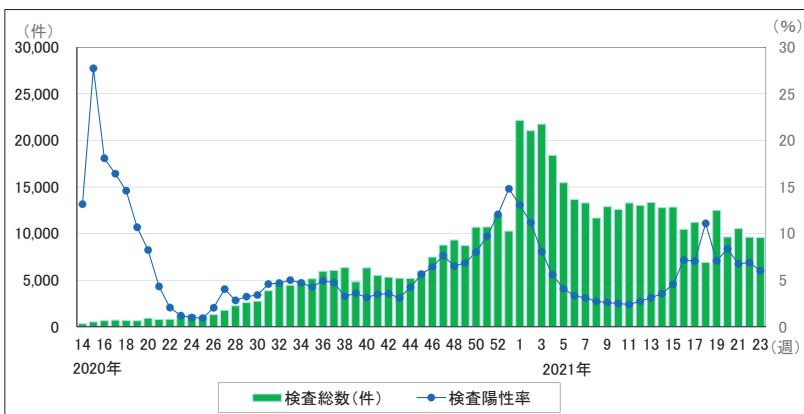
4 陽性確定時の症状別人数(年代別)



5 報告数と届出時点の症状



6 市内における新型コロナウイルス検査実施状況



※ 検査総数: 医療機関(民間検査機関等)、接触者外来、市衛生研究所の検査数の合計

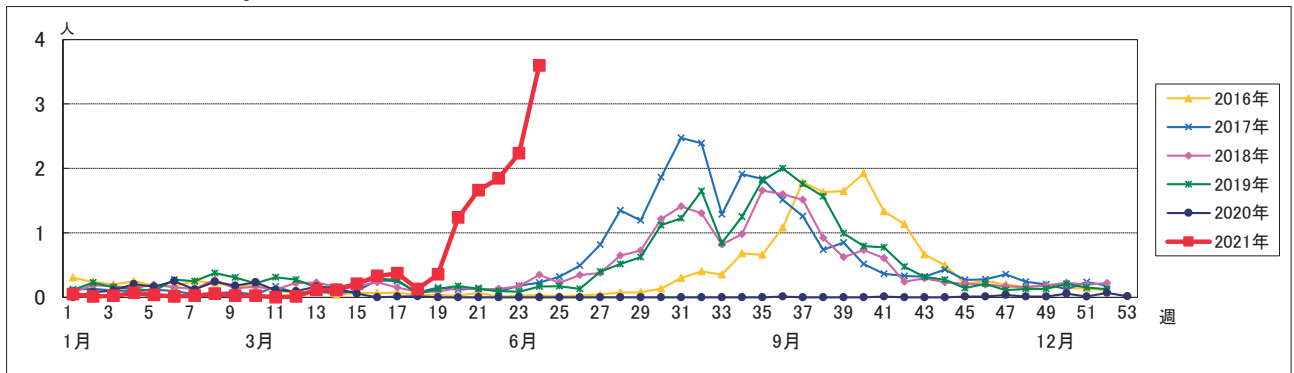
7 変異株の検出状況

神奈川県 新型コロナウイルス感染症による患者確認について
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/prs/r7391113.html>

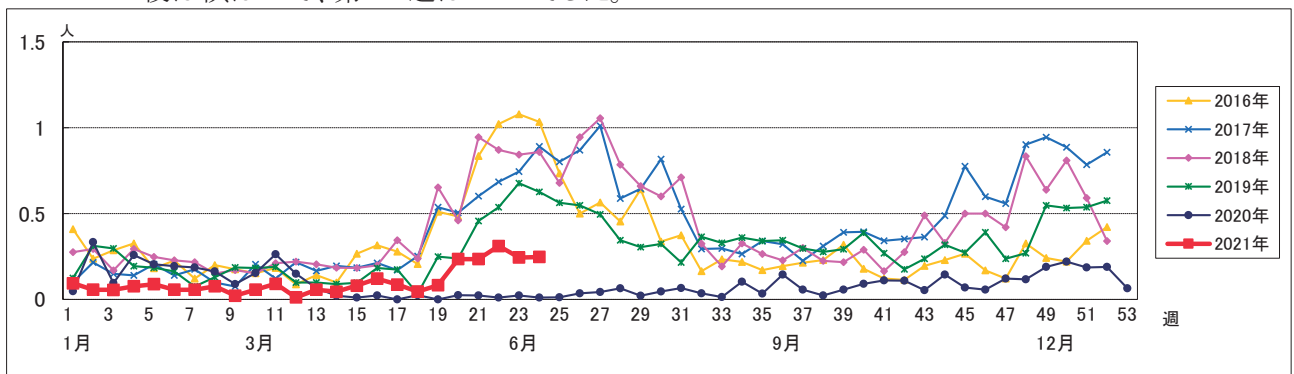
報告週対応表	
第21週	5月24日～ 5月30日
第22週	5月31日～ 6月 6日
第23週	6月 7日～ 6月13日
第24週	6月14日～ 6月20日

◇ 定点把握の対象:

1 RSウイルス感染症: 第16週0.33、第19週0.35でしたが、その後増加し、第22週1.84、第23週2.23、第24週は3.60でした。



2 咽頭結膜熱: 例年この時期に多くの報告がみられていますが、第16週0.12、第19週0.08、第20週0.24の後は横ばいで、第24週は0.25でした。



3 性感染症(5月)

性器クラミジア感染症	男性:24件	女性:11件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 8件	女性:11件
尖圭コンジローマ	男性: 3件	女性: 3件	淋菌感染症	男性:18件	女性: 3件

4 基幹定点週報

	第21週	第22週	第23週	第24週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.50
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.33	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(5月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/>

令和3年7月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告数が第25週以降増加しています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が多い状態が続いています。
- RSウイルス感染症の報告は依然として多い状態が続いており、今後とも注意が必要です。
- 梅毒の報告が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈7月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	21件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
レジオネラ症	5件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	6件
アメーバ赤痢	3件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
ウイルス性肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	6件	梅毒	14件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157が9件(うち4件が無症状病原体保有者)、O26が6件(うち2件が無症状病原体保有者)、O111が3件(すべて無症状病原体保有者)、O不明が3件(うち1件が無症状病原体保有者)の報告がありました。
- 2 レジオネラ症: 肺炎型5件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 3 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症3件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 4 ウイルス性肝炎: CMVの報告が1件ありました。
- 5 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 6件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 6 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群1件の報告がありました。創傷感染が推定されています。
- 7 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDSが2件、無症状病原体保有者3件、その他1件の報告がありました。性的接触(同性間5件、同性間および異性間1件)による感染が推定されています。
- 8 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 80歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)、10歳未満の報告が1件(ワクチン接種歴4回有)ありました。
- 9 侵襲性肺炎球菌感染症: 70歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)、10歳未満の報告が3件(ワクチン接種歴4回有が2件、ワクチン接種歴3回有が1件)ありました。
- 10 梅毒: 早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件、晩期顕症梅毒2件、無症状病原体保有者3件の報告がありました。男性10件、女性4件で、うち9件は性的接触(異性間8件、詳細不明1件)による感染が推定されています。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

第25週～第29週に横浜市から報道発表のありました症例は4,582件でした。

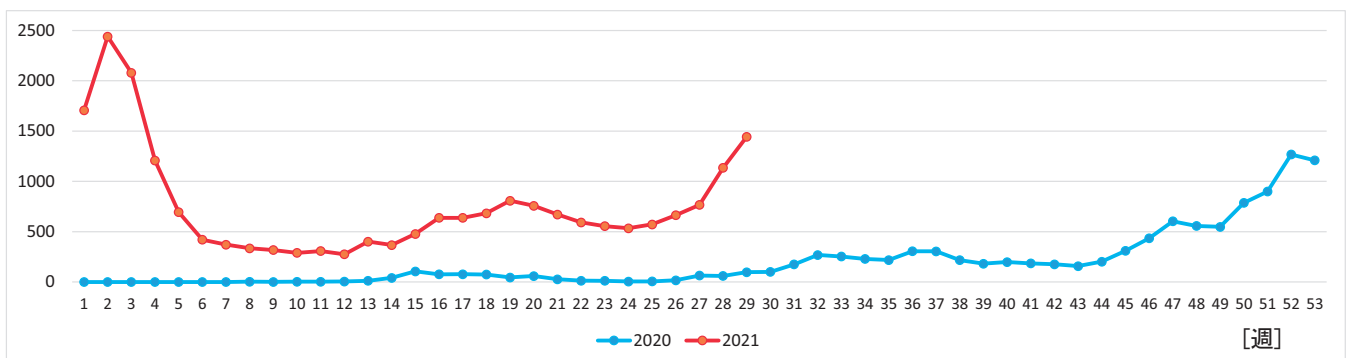
◆ 横浜市内の陽性患者の発生状況データ・相談件数

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/yobosesshu/kansensho/coronavirus/corona-data.html>

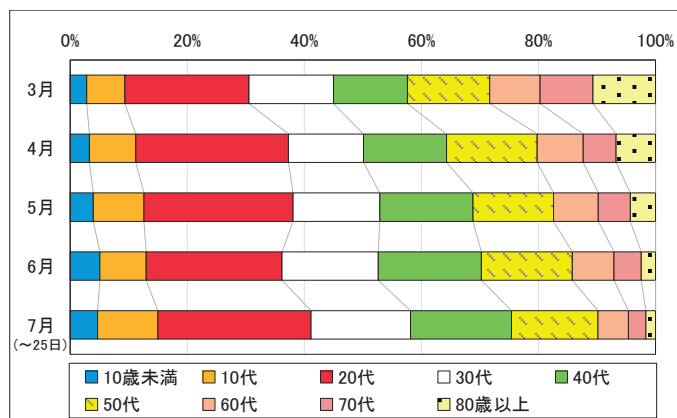
◆ 変異株の検出状況: 神奈川県 新型コロナウイルス感染症による患者確認について

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/prs/r6476099.html>

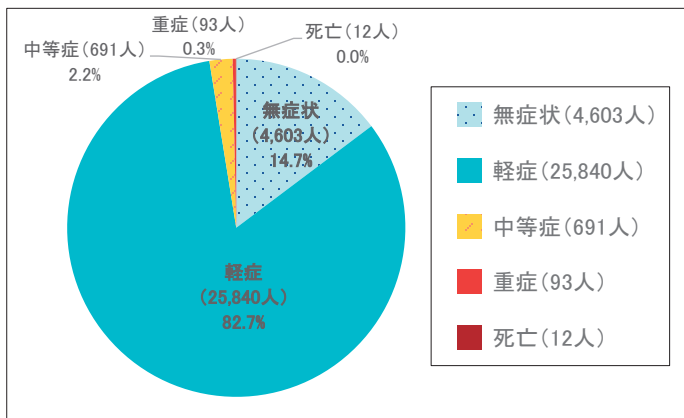
1 報告数の推移



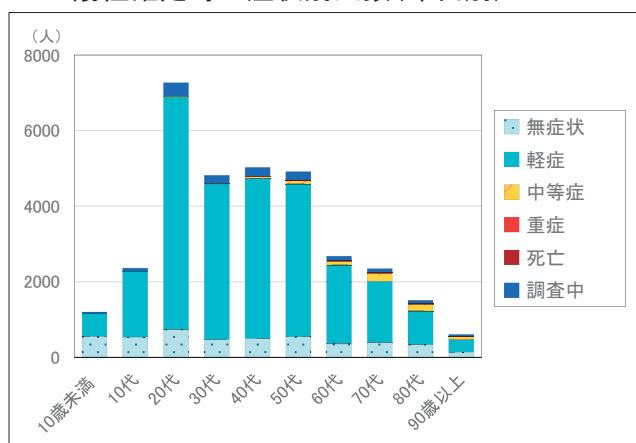
2 年齢別割合



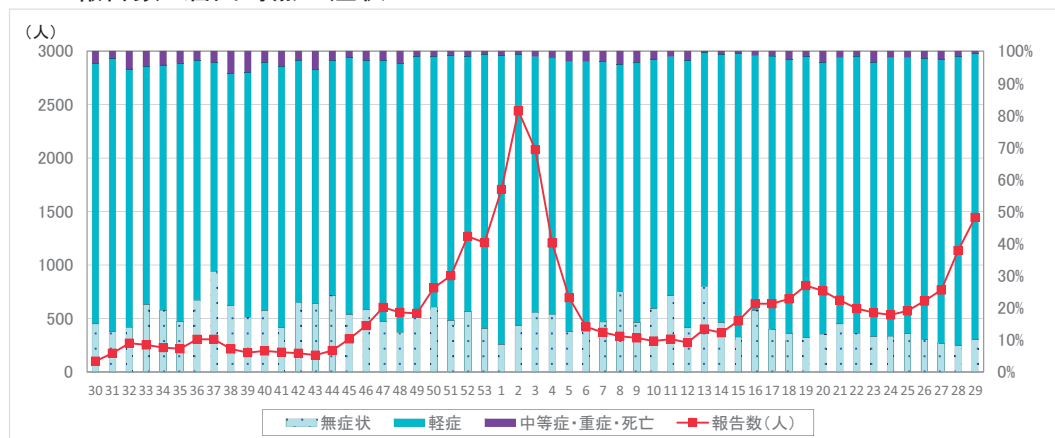
3 陽性確定時の症状の割合



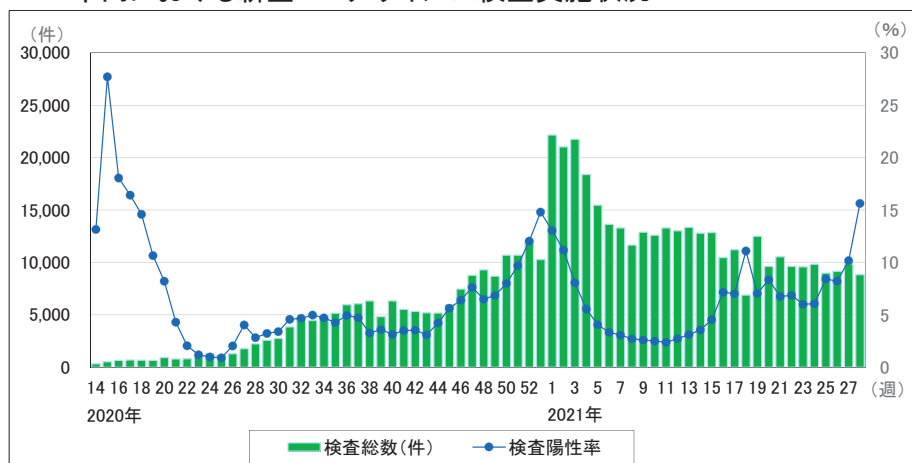
4 陽性確定時の症状別人数(年代別)



5 報告数と届出時点の症状



6 市内における新型コロナウイルス検査実施状況

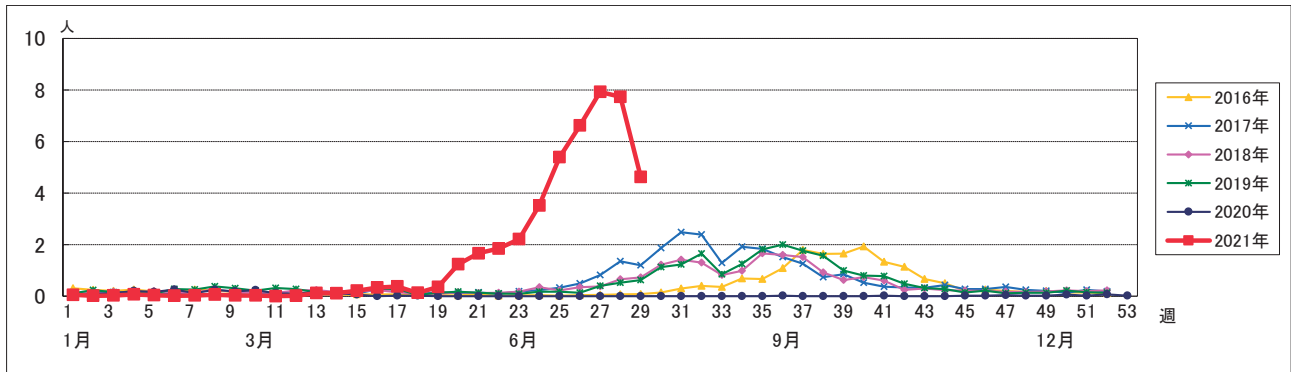


※ 検査総数:医療機関(民間検査機関等)、接触者外来、市衛生研究所の検査数の合計

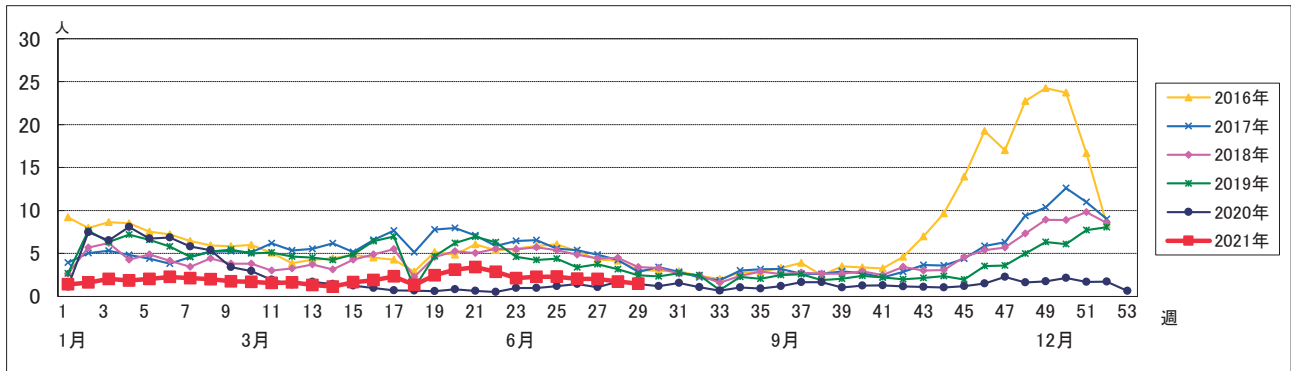
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第25週	6月21日～6月27日
第26週	6月28日～7月4日
第27週	7月5日～7月11日
第28週	7月12日～7月18日
第29週	7月19日～7月25日

1 RSウイルス感染症:5月頃より増加しています。第27週7.92、第28週7.73、第29週は4.62でした。



2 感染性胃腸炎:例年より低めの報告数で推移しています。第29週の定点あたりの報告数は1.47でした。



3 性感染症(6月)

性器クラミジア感染症	男性:29件	女性:20件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:4件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性:4件	女性:3件	淋菌感染症	男性:17件	女性:4件

4 基幹定点週報

	第25週	第26週	第27週	第28週	第29週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.33	0.66	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(6月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/>

令和3年8月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告数が急増していて、50代以下で9割以上を占めています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告数が多い状態が続いています。
- 梅毒の報告が続いています。
- RSウイルス感染症の報告数が第27週をピークにその後減少しています。

◇ 全数把握の対象

〈8月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	21件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
レジオネラ症	5件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件	梅毒	14件
急性脳炎	1件	播種性クリプトコックス症	2件
クロイツフェルト・ヤコブ病	3件	百日咳	1件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症：O157が10件(うち3件が無症状病原体保有者)、O26が3件(うち1件が無症状病原体保有者)、O111が2件、O121が1件、O145が1件、O103が1件(無症状病原体保有者)、O不明が3件(すべて無症状病原体保有者)の報告がありました。
- 2 レジオネラ症：肺炎型5件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 3 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症：4件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 4 急性脳炎：10歳未満の報告が1件ありました(病原体不明)。
- 5 クロイツフェルト・ヤコブ病：古典型CJD3件の報告がありました。
- 6 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)：AIDS1件、その他1件の報告がありました。うち1件は同性間性的接触による感染が推定されています。
- 7 侵襲性肺炎球菌感染症：80歳代の報告が1件ありました(ワクチン接種歴不明)。
- 8 梅毒：早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期4件、無症状病原体保有者3件の報告がありました。男性10件、女性4件で、うち13件は性的接触(異性間11件、同性間1件、詳細不明1件)による感染が推定されています。
- 9 播種性クリプトコックス症：2件の報告があり、うち1件が免疫不全によるものと推定されています。
- 10 百日咳：10歳未満の報告が1件ありました(ワクチン接種歴不明)。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

第30週～第33週に横浜市から報道発表のありました症例は19,589件でした。

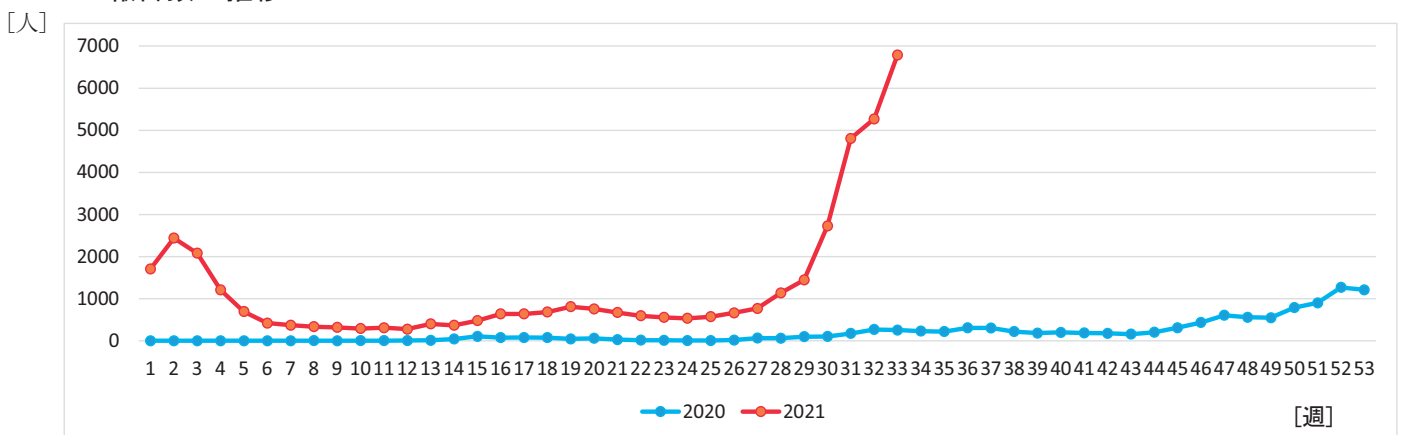
◆ 横浜市内の陽性患者の発生状況データ・相談件数

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryoyobosesshu/kansensho/coronavirus/corona-data.html>

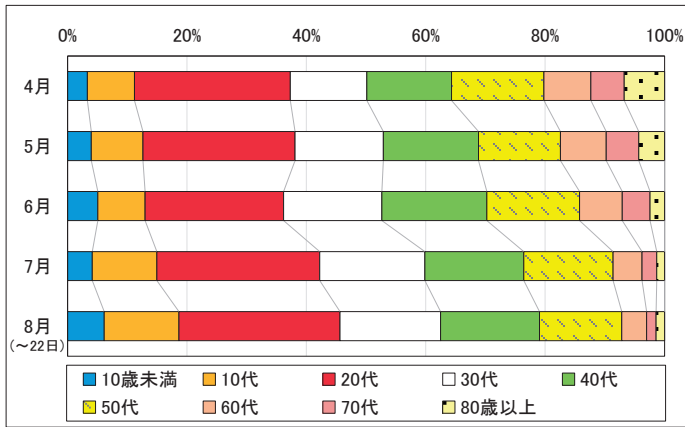
◆ 変異株の検出状況：神奈川県 新型コロナウイルス感染症による患者確認について(8月25日版)

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/prs/r1796376.html>

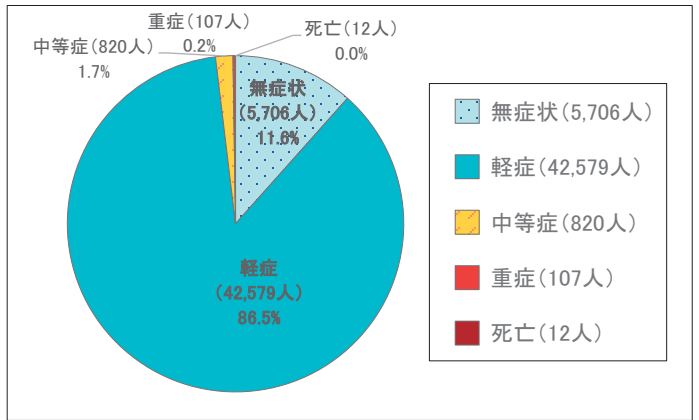
1 報告数の推移



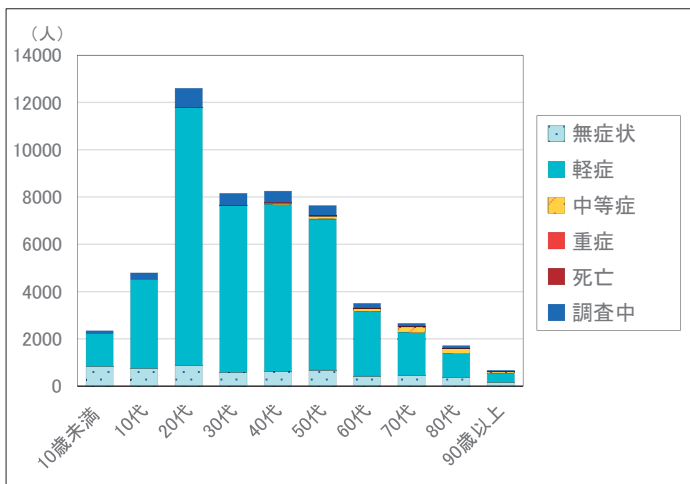
2 年齢別割合



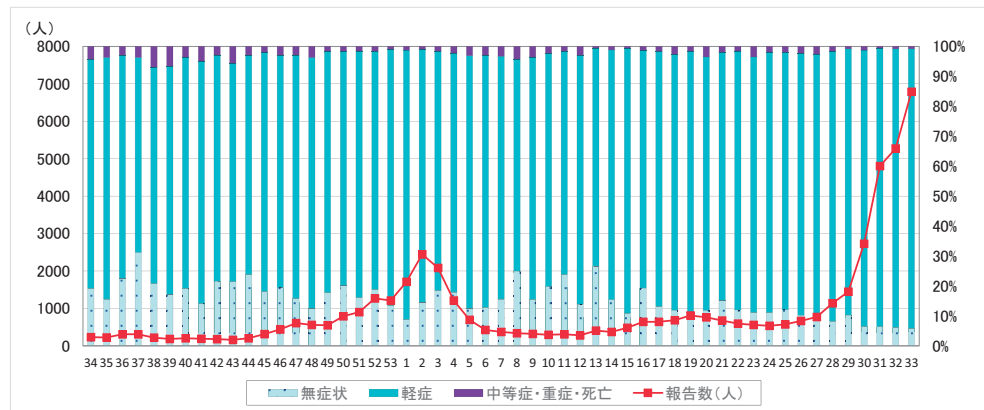
3 陽性確定時の症状の割合



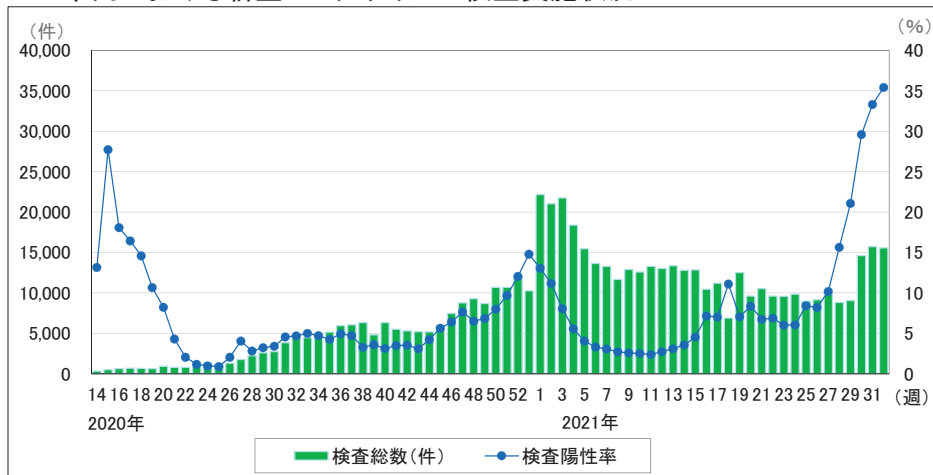
4 陽性確定時の症状別人数(年代別)



5 報告数と届出時点の重症度



6 市内における新型コロナウイルス検査実施状況



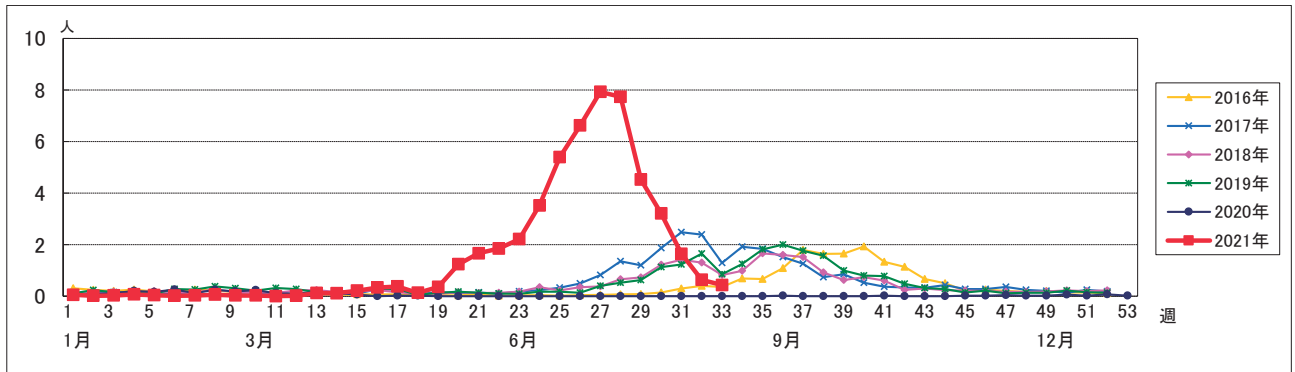
※ 検査総数: 医療機関(民間検査機関等)、接触者外来、市衛生研究所の検査数の合計

報告週対応表

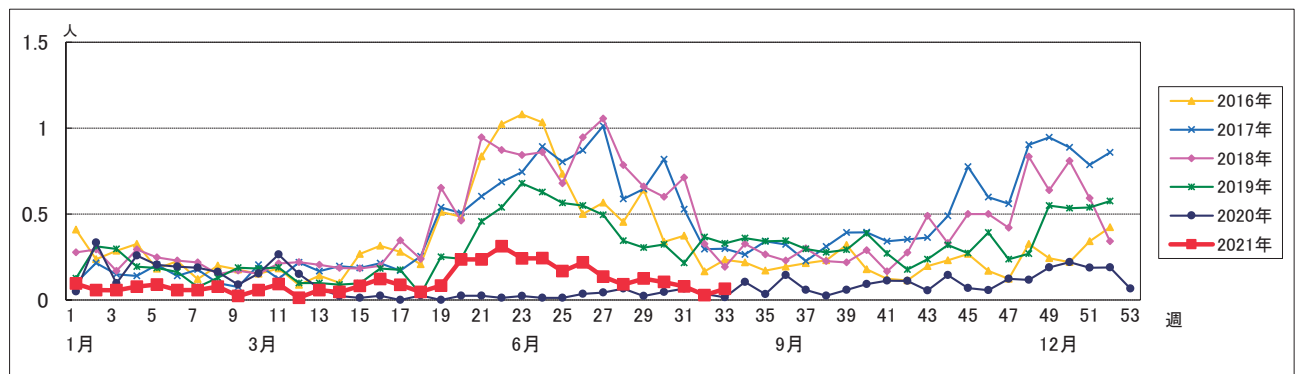
第30週	7月26日～8月1日
第31週	8月2日～8月8日
第32週	8月9日～8月15日
第33週	8月16日～8月22日

◇ 定点把握の対象

1 RSウイルス感染症:5月頃より増加し、第27週に7.92まで増加しましたが、その後減少し、第33週は0.43となっています。



2 咽頭結膜熱:第33週は0.06と例年より低めの報告数で推移しています。



3 性感染症(7月)

性器クラミジア感染症	男性:33件	女性:21件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:3件	女性:8件
尖圭コンジローマ	男性:3件	女性:4件	淋菌感染症	男性:24件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第30週	第31週	第32週	第33週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.33	0.00

5 基幹定点月報(7月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryoo/eiken/>

令和3年9月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告数が第34週をピークに減少しています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告数が多い状態が続いています。
- 梅毒の報告が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈9月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	16件	急性脳炎	1件
E型肝炎	1件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
レジオネラ症	4件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件
アメーバ赤痢	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
ウイルス性肝炎	1件	水痘(入院例に限る)	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7件	梅毒	15件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157が11件(うち1件が無症状病原体保有者)、O26が2件、O103が1件(無症状病原体保有者)、O不明が2件(すべて無症状病原体保有者)の報告がありました。
- 2 E型肝炎: 経口感染と推定される報告が1件ありました。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型3件、ポンティアック熱型1件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症3件(感染経路等不明2件、経口感染1件)の報告がありました。
- 5 ウイルス性肝炎: B型の報告が1件ありました。異性間性的接触による感染が推定されています。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 7件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 7 急性脳炎: VZVによると推定される90歳代の報告が1件ありました。
- 8 クロイツフェルト・ヤコブ病: 古典型CJD1件の報告がありました。
- 9 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群の報告が1件、G群の報告が2件ありました。
- 10 侵襲性肺炎球菌感染症: 20歳代1件(ワクチン接種歴無)、40歳代1件(ワクチン接種歴不明)、70歳代1件(ワクチン接種歴不明)、80歳代2件(いずれもワクチン接種歴不明)の報告がありました。
- 11 水痘(入院例に限る): 90歳代の検査診断例の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 12 梅毒: 早期顕症梅毒Ⅰ期9件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件、無症状病原体保有者1件の報告がありました。男性11件、女性4件で、12件は性的接触(異性間11件、詳細不明1件)による感染が推定されています。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

第34週～第39週に横浜市から報道発表のありました症例は16,503件でした。

◆ 横浜市内の陽性患者の発生状況データ・相談件数

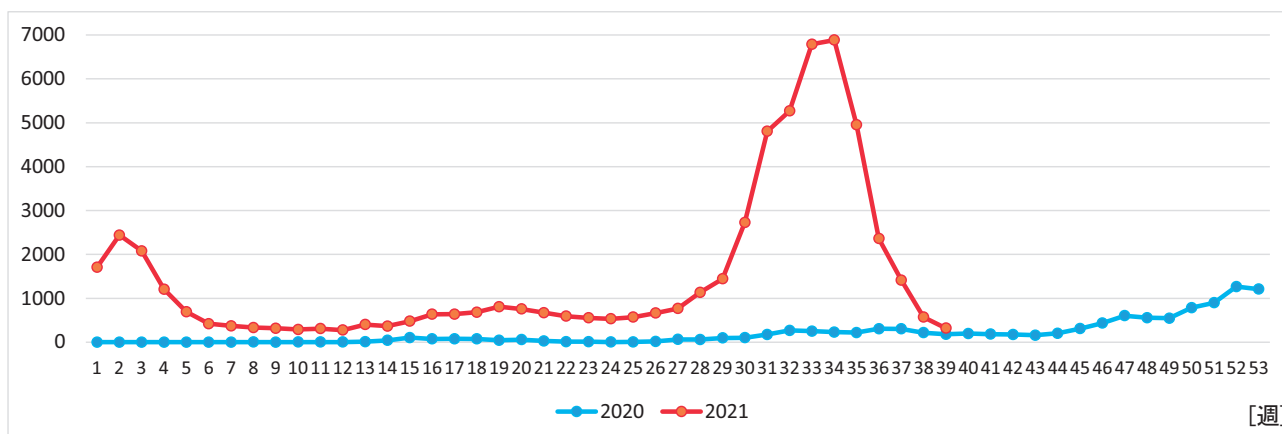
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/yobosesshu/kansensho/coronavirus/corona-data.html>

◆ 変異株の検出状況: 神奈川県 新型コロナウイルス感染症による患者確認について(10月5日版)

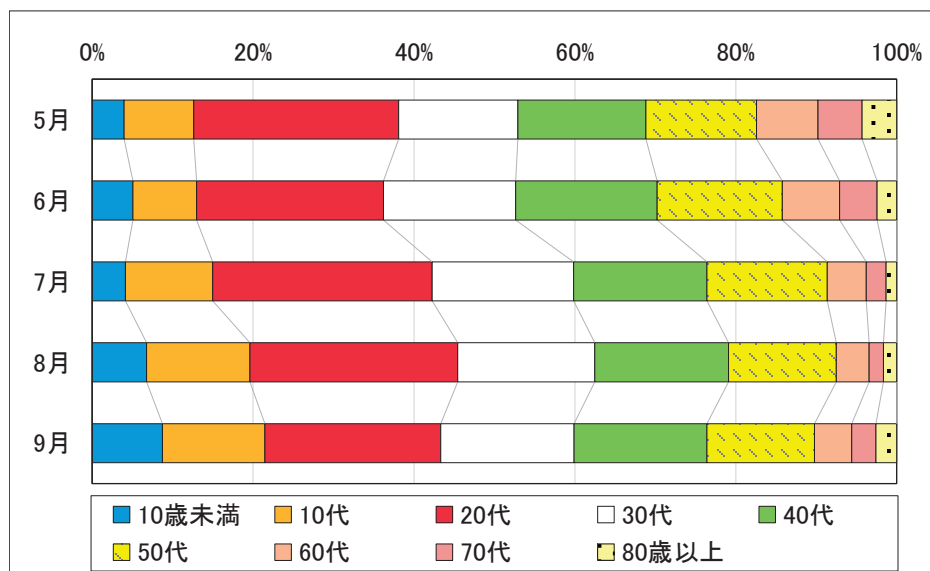
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/prs/r1880316.html>

1 報告数の推移

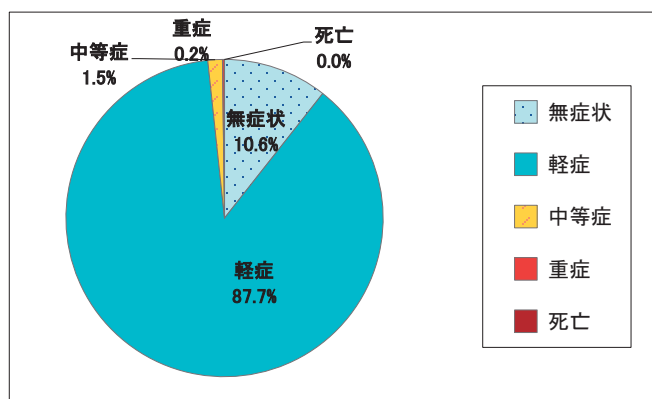
[人]



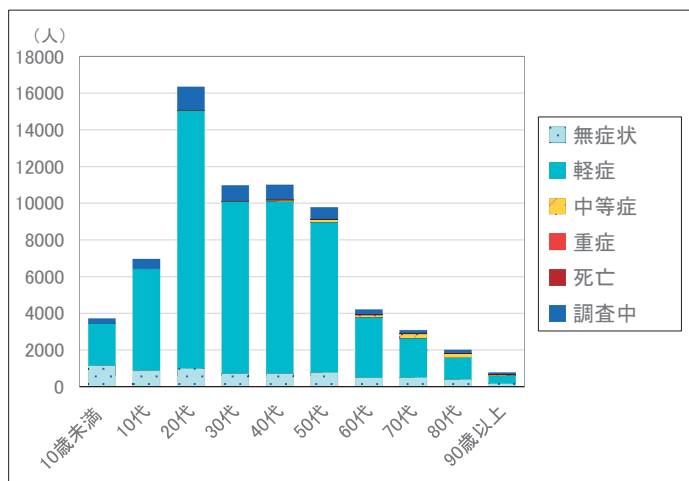
2 年齢別割合



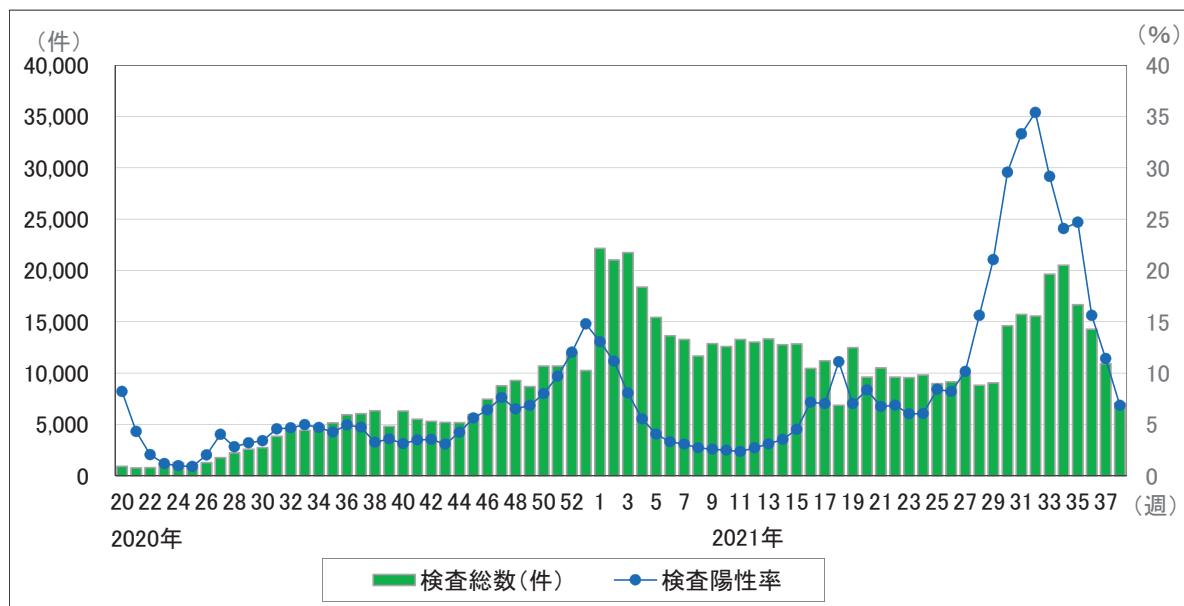
3 陽性確定時の症状の割合



4 陽性確定時の症状別人数(年代別)



5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況

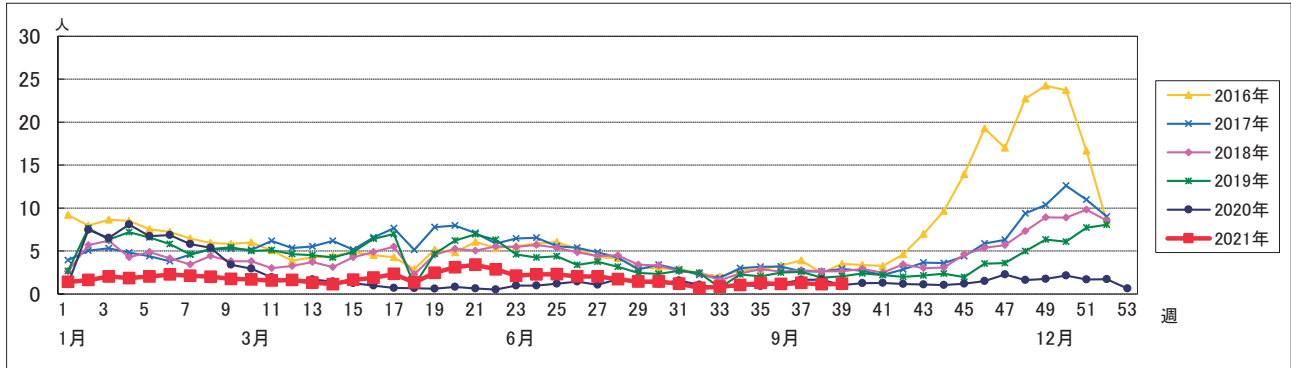


※ 検査総数: 医療機関(民間検査機関等)、接触者外来、市衛生研究所の検査数の合計

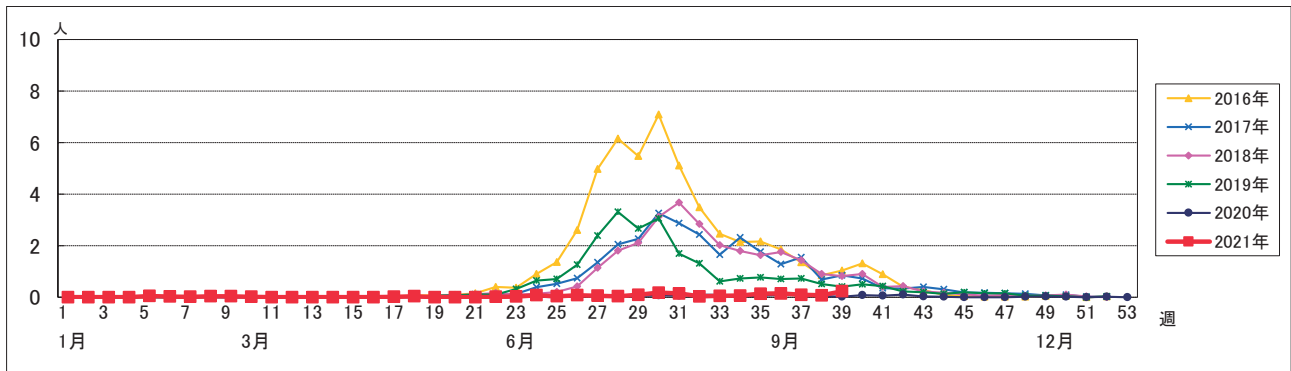
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第34週	8月23日～8月29日
第35週	8月30日～9月5日
第36週	9月6日～9月12日
第37週	9月13日～9月19日
第38週	9月20日～9月26日
第39週	9月27日～10月3日

1 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第39週は1.18でした。



2 ヘルパンギーナ: 例年より低めの報告数で推移しています。第39週は0.23でした。



3 性感染症(8月)

性器クラミジア感染症	男性:28件	女性:22件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:4件	女性:7件
尖圭コンジローマ	男性:5件	女性:0件	淋菌感染症	男性:15件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第34週	第35週	第36週	第37週	第38週	第39週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(8月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	10件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/>

令和3年10月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告数は、第35週以降減少し続けています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。
- 梅毒の報告が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈10月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	10件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
レジオネラ症	4件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
アメーバ赤痢	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件	梅毒	12件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件	-	-

- 1 腸管出血性大腸菌感染症：O157が6件、O不明4件(うち2件が無症状病原体保有者)報告がありました。
- 2 レジオネラ症：肺炎型4件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 3 アメーバ赤痢：腸管アメーバ症1件の報告がありました。同性間性的接触による感染が推定されています。
- 4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症：4件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 5 劇症型溶血性レンサ球菌感染症：B群の報告が1件ありました。創傷感染が推定されています。
- 6 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)：無症状病原体保有者2件の報告がありました。いずれも男性で、同性間性的接触による感染が推定されています。
- 7 侵襲性インフルエンザ菌感染症：70歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 8 侵襲性肺炎球菌感染症：10歳未満の報告が1件(ワクチン接種歴3回有)ありました。
- 9 梅毒：早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件、無症状病原体保有者2件の報告がありました。男性10件、女性2件で、うち11件は性的接触(異性間7件、同性間2件、詳細不明2件)による感染が推定されています。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

第40週～第42週に横浜市から報道発表のありました症例は423件でした。

◆ 横浜市内の陽性患者の発生状況データ・相談件数

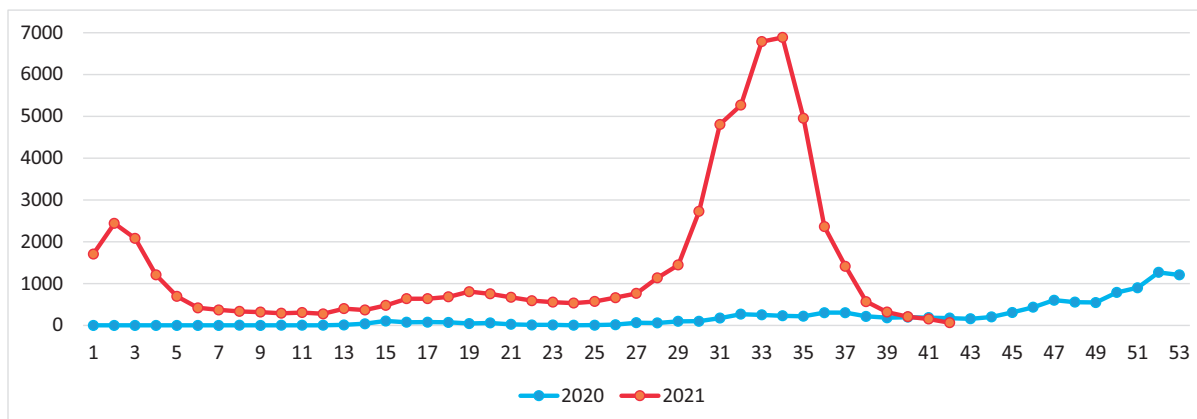
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/yobosesshu/kansensho/coronavirus/corona-data.html>

◆ 変異株の検出状況：神奈川県 新型コロナウイルス感染症による患者確認について(10月26日版)

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/prs/r0286904.html>

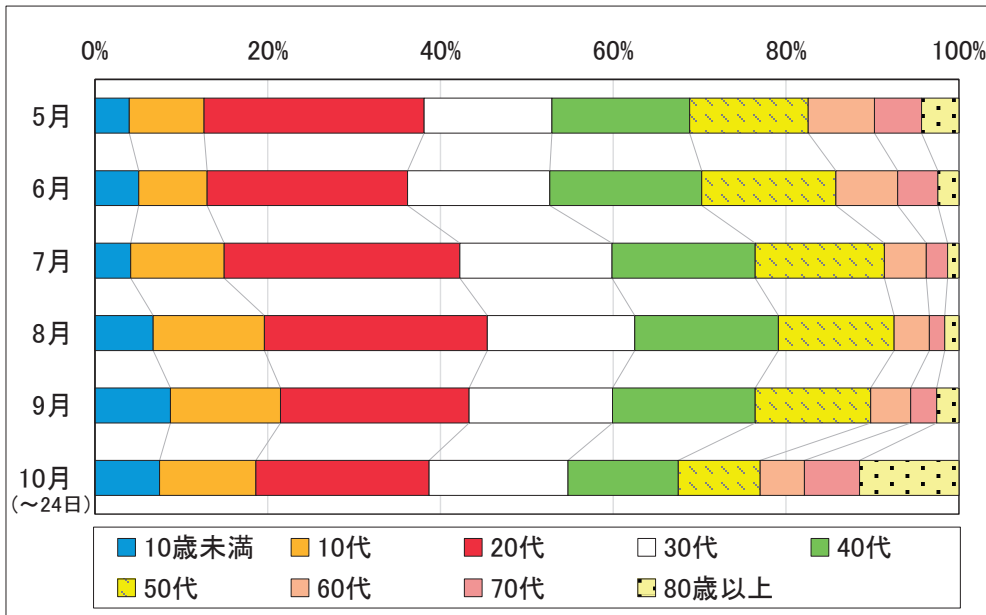
1 報告数の推移

[人]

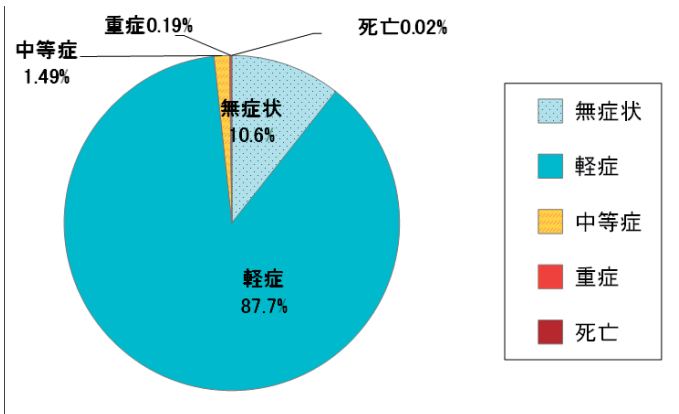


[週]

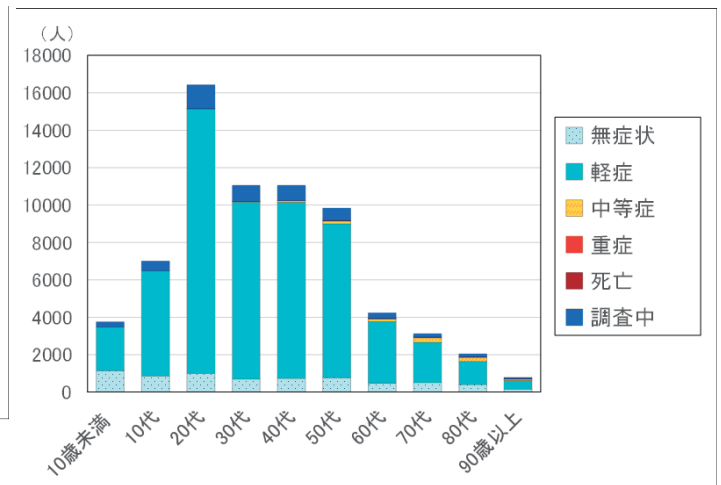
2 年齢別割合



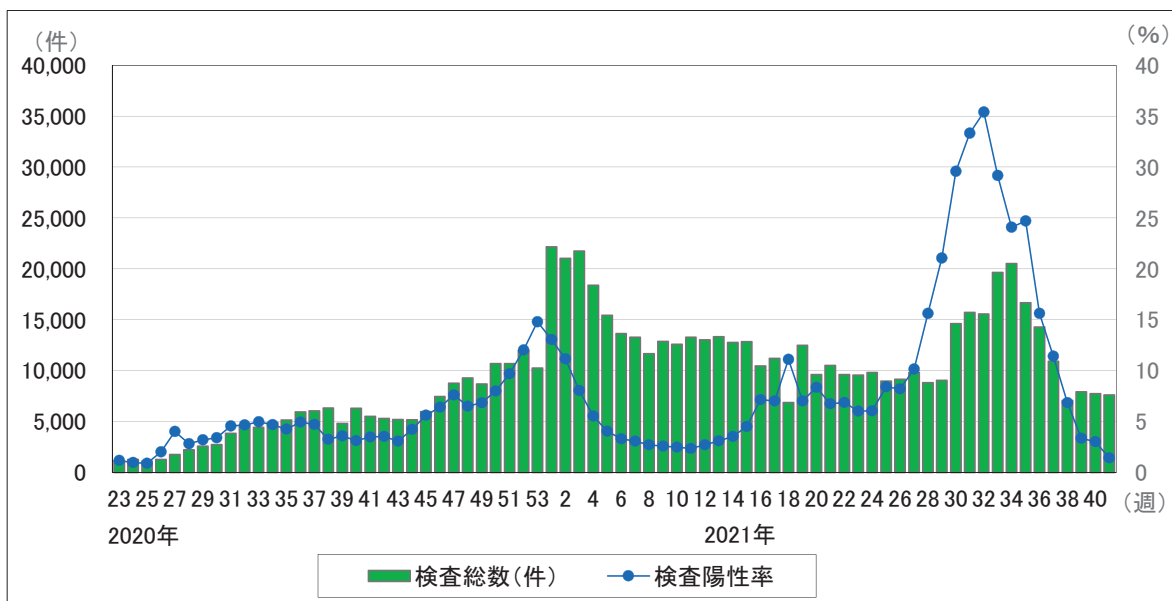
3 陽性確定時の症状の割合



4 陽性確定時の症状別人数(年代別)



5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況 (第41週まで)

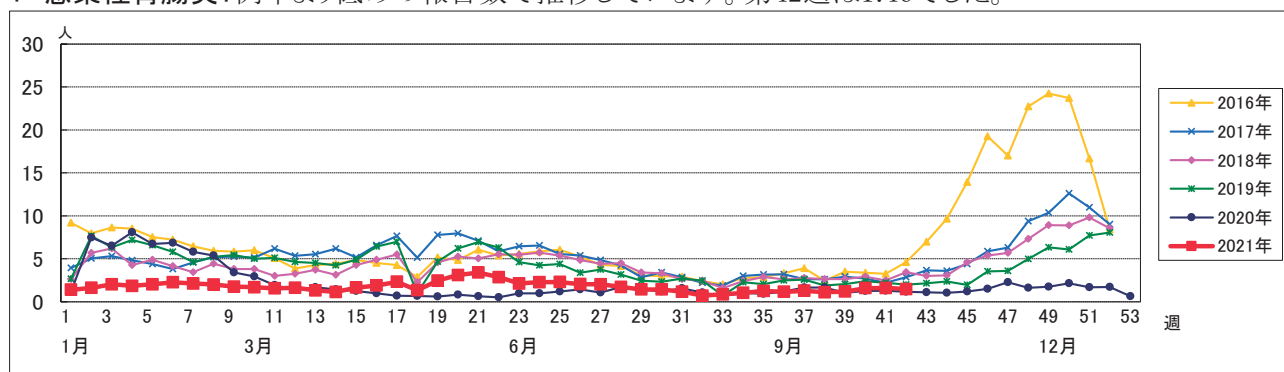


※ 検査総数:医療機関(民間検査機関等)、接触者外来、市衛生研究所の検査数の合計

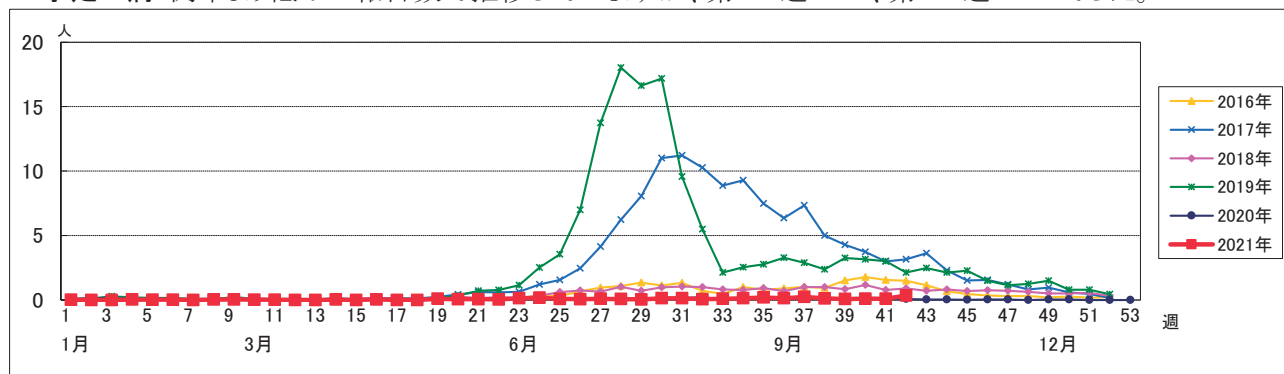
報告週対応表	
第40週	10月 4日～10月10日
第41週	10月11日～10月17日
第42週	10月18日～10月24日

◇ 定点把握の対象

1 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第42週は1.46でした。



2 手足口病: 例年より低めの報告数で推移していますが、第41週 0.09、第42週 0.34 でした。



3 性感染症(9月)

性器クラミジア感染症	男性: 25件	女性: 23件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 6件	女性: 8件
尖圭コンジローマ	男性: 5件	女性: 3件	淋菌感染症	男性: 17件	女性: 2件

4 基幹定点週報

	第40週	第41週	第42週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.66	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(9月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	14件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/>

令和3年11月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は、低めの報告数で推移しています。
- 梅毒の報告が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈11月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
E型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
レジオネラ症	2件	侵襲性肺炎球菌感染症	7件
ウイルス性肝炎	1件	梅毒	13件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件	播種性クリプトコックス症	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件	-	-

- 腸管出血性大腸菌感染症: O157が2件、O不明2件(いずれも無症状病原体保有者)報告がありました。
- E型肝炎: 1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- レジオネラ症: 肺炎型2件の報告がありました。いずれも80歳代で、感染経路等不明です。
- ウイルス性肝炎: B型1件の報告(ワクチン接種歴無)がありました。異性間性的接触による感染が推定されています。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 4件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: G群1件、A群1件の報告がありました。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者2件の報告がありました。いずれも男性で、性的接触(異性間1件、同性間1件)による感染が推定されています。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 80歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 10歳未満2件(いずれもワクチン接種歴4回有)、50歳代1件(ワクチン接種歴無)、70歳代2件(ワクチン接種歴不明1件、1回有1件)、80歳代2件(いずれもワクチン接種歴不明)の報告がありました。
- 梅毒: 早期顕症梅毒Ⅰ期7件、早期顕症梅毒Ⅱ期4件、無症状病原体保有者2件(男性6件、女性7件)で、そのうち12件に性的接触(異性間9件、同性間2件、詳細不明1件)による感染が推定されています。
- 播種性クリプトコックス症: 免疫不全によるものと推定される80歳代の報告が1件ありました。

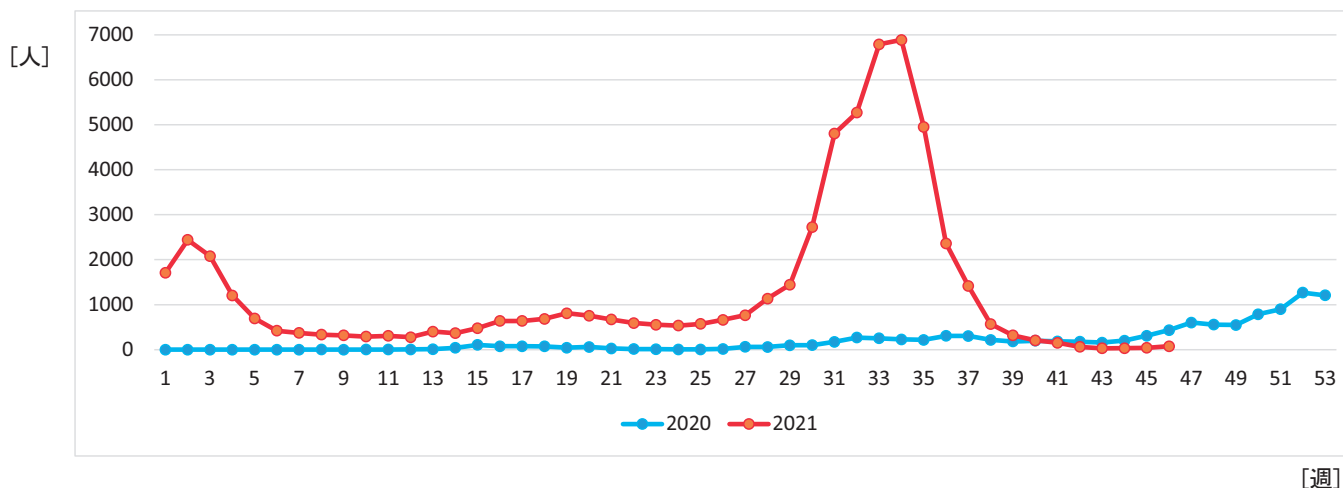
◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

第43週～第46週に横浜市から報道発表のありました症例は180件でした。

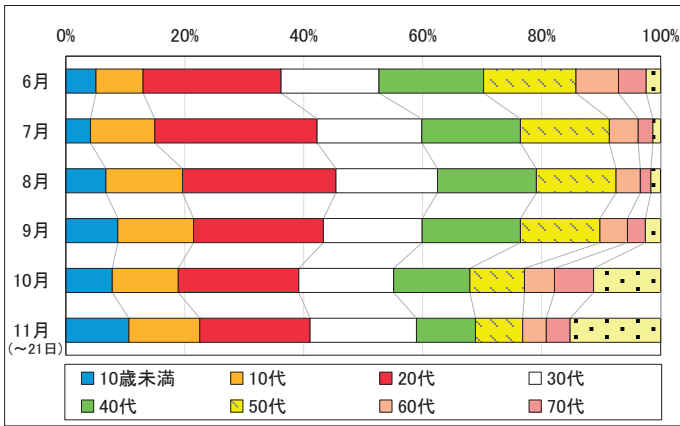
◆ 横浜市内の陽性患者の発生状況データ・相談件数

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/yobosesshu/kansensho/coronavirus/corona-data.html>

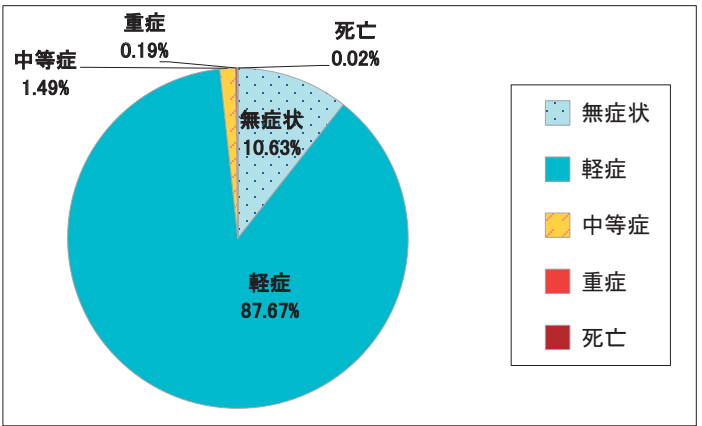
1 報告数の推移



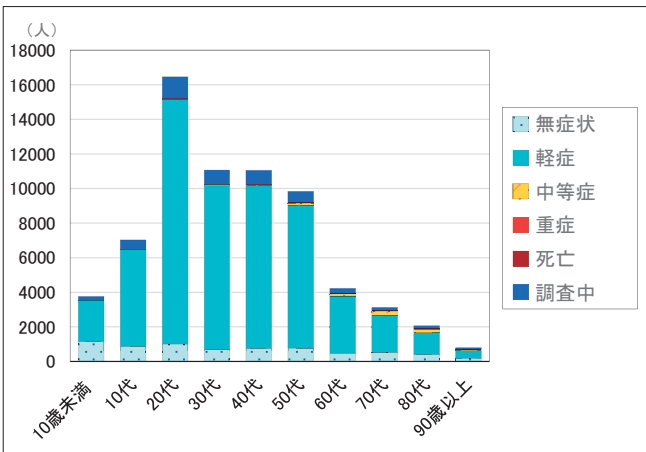
2 年齢別割合



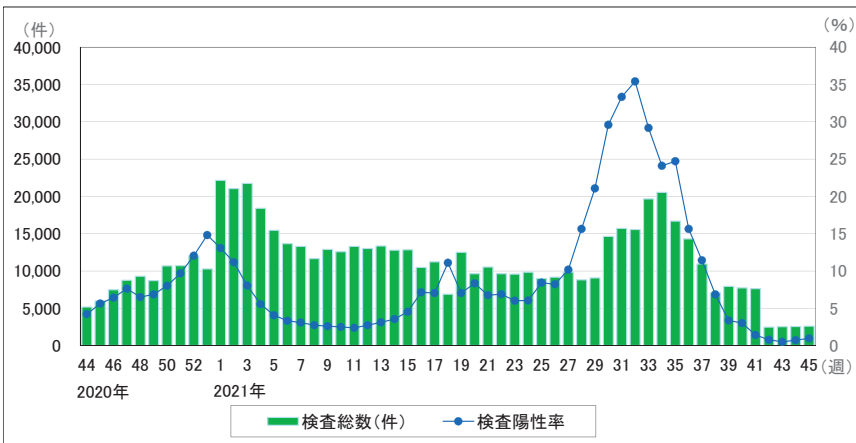
3 陽性確定時の症状の割合(2021年第46週まで)



4 陽性確定時の症状別人数(年代別)(2021年第46週まで)

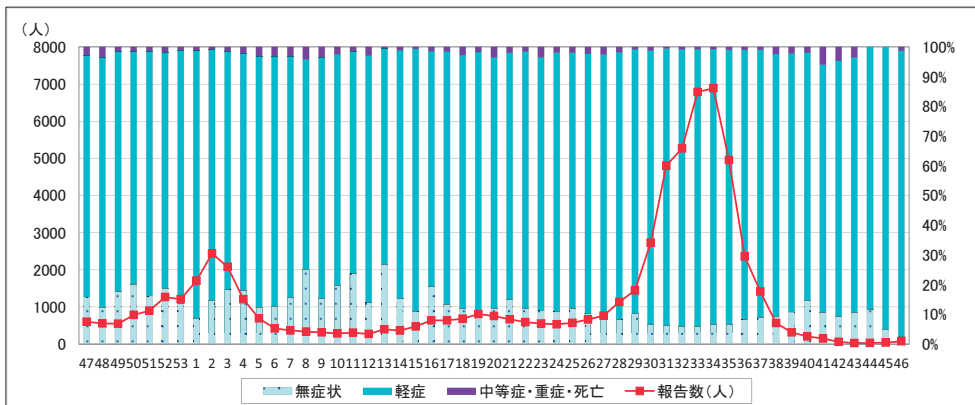


5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況(2020年第44週~2021年第45週)



※ 検査総数: 医療機関(民間検査機関等)、接触者外来、市衛生研究所の検査数の合計

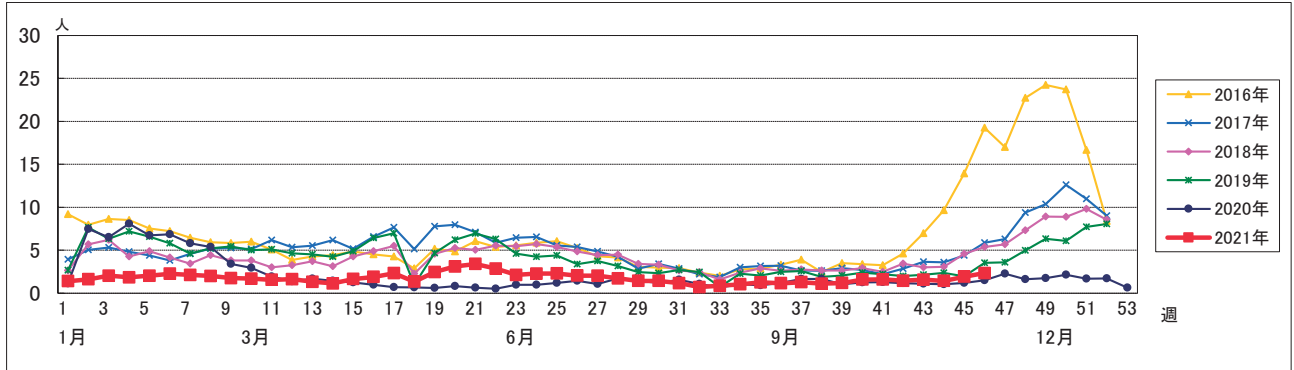
6 報告数と届出時点の重症度(2020年第47週~2021年第46週)



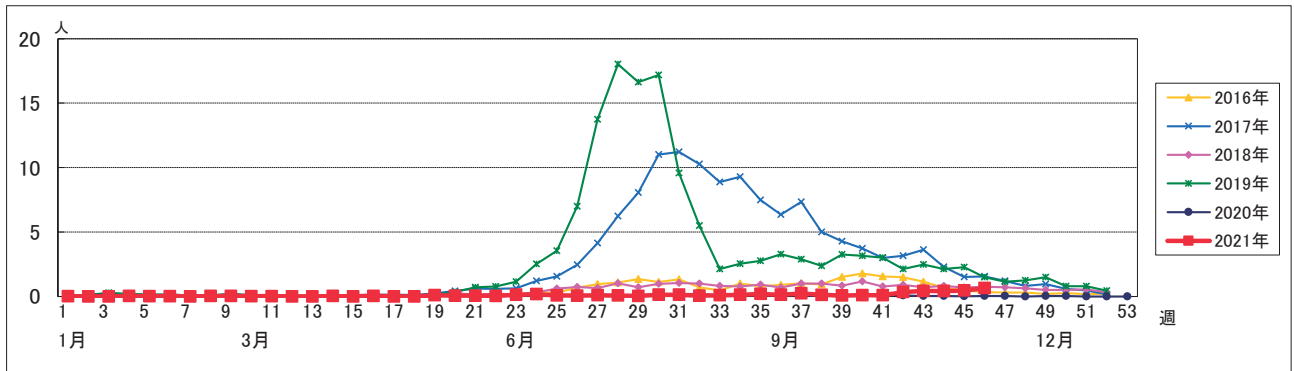
報告週対応表	
第43週	10月25日～10月31日
第44週	11月 1日～11月 7日
第45週	11月 8日～11月14日
第46週	11月15日～11月21日

◇ 定点把握の対象

1 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移していましたが、第44週1.43、第45週1.92、第46週2.33となっています。



2 手足口病: 例年より低めの報告数で推移していますが、第44週0.42、第45週0.45、第46週0.64となっています。



3 性感染症(10月)

性器クラミジア感染症	男性:28件	女性:19件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 7件	女性: 6件
尖圭コンジローマ	男性: 7件	女性: 0件	淋菌感染症	男性:16件	女性: 9件

4 基幹定点週報

	第43週	第44週	第45週	第46週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.33	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.33	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(10月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	12件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/>

令和3年12月期 横浜市感染症発生動向調査委員会報告

《今月のトピックス》

- 感染性胃腸炎の報告数が第45週から増加しています。
- 新型コロナウイルス感染症は、低めの報告数で推移しています。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が13件で、高い水準で続いています。
- 梅毒の報告が19件で、高い水準で続いています。

◇ 全数把握の対象

〈12月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	13件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件
E型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
レジオネラ症	5件	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
アメーバ赤痢	2件	梅毒	19件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件	播種性クリプトコックス症	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4件	百日咳	1件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157が6件(うち無症状病原体保有者1件)、O不明5件(いずれも無症状病原体保有者)、O121が1件、O28が1件(無症状病原体保有者)の報告がありました。
- 2 E型肝炎: 無症状病原体保有者1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型5件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症2件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 5 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 4件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 6 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: G群2件、A群1件、血清群不明1件の報告がありました。そのうち2件は創傷感染が推定されています。
- 7 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者1件の報告がありました。同性間性的接触による感染が推定されています。
- 8 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 70歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 9 侵襲性肺炎球菌感染症: 10歳未満1件(ワクチン接種歴4回有)、40歳代1件(ワクチン接種歴不明)、60歳以上で3件(ワクチン接種歴不明2件、ワクチン接種歴無1件)の報告がありました。
- 10 梅毒: 男性13件女性6件、早期顕症梅毒Ⅰ期10件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件、無症状病原体保有者4件で、そのうち16件は性的接触(異性間10件、同性間4件、詳細不明2件)による感染が推定されています。
- 11 播種性クリプトコックス症: 免疫不全によるものと推定される60歳代の報告が1件ありました。
- 12 百日咳: 20歳代1件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

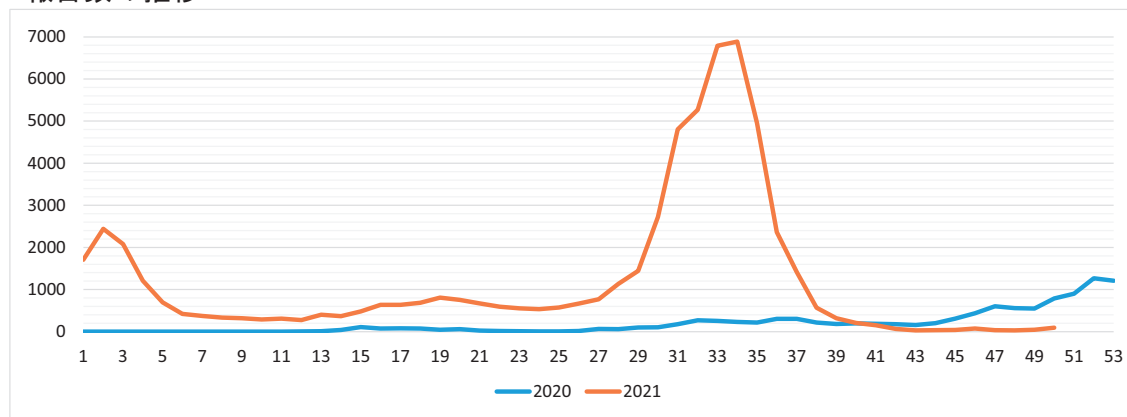
第47週～第50週に横浜市から報道発表のありました症例は204件でした。

◆ 横浜市内の陽性患者の発生状況データ・相談件数

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/yobosesshu/kansensho/coronavirus/corona-data.html>

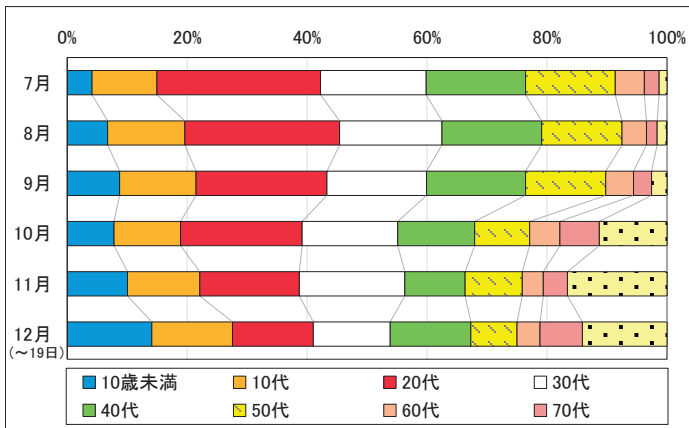
1 報告数の推移

[人]

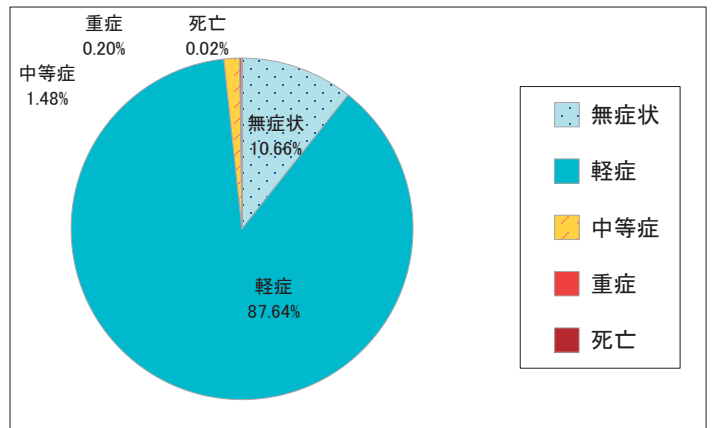


[週]

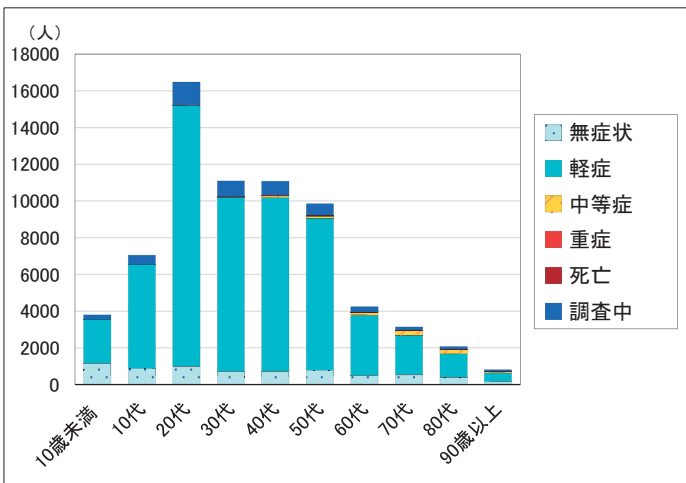
2 年齢別割合



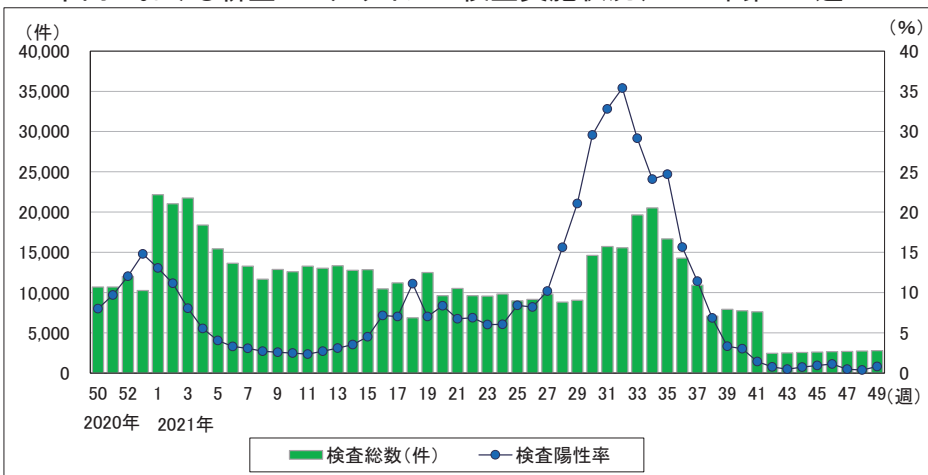
3 陽性確定時の症状の割合(2021年第50週まで)



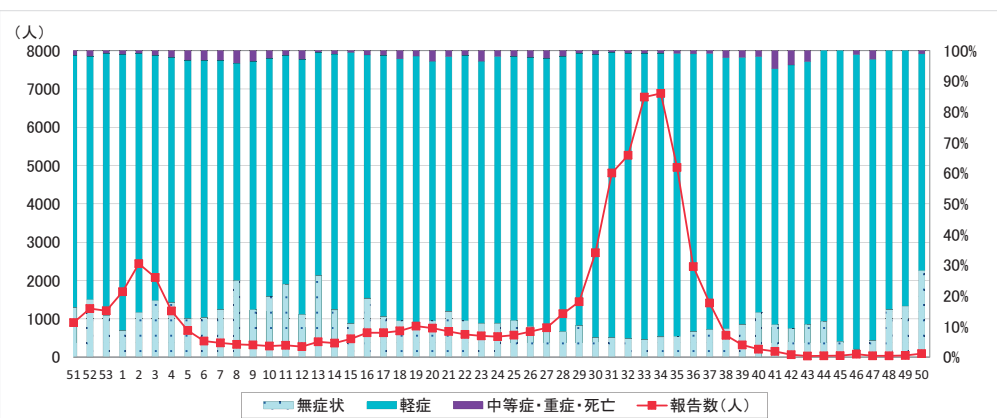
4 陽性確定時の症状別人数(年代別)(2021年第50週まで)



5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況(2020年第50週~2021年第49週)



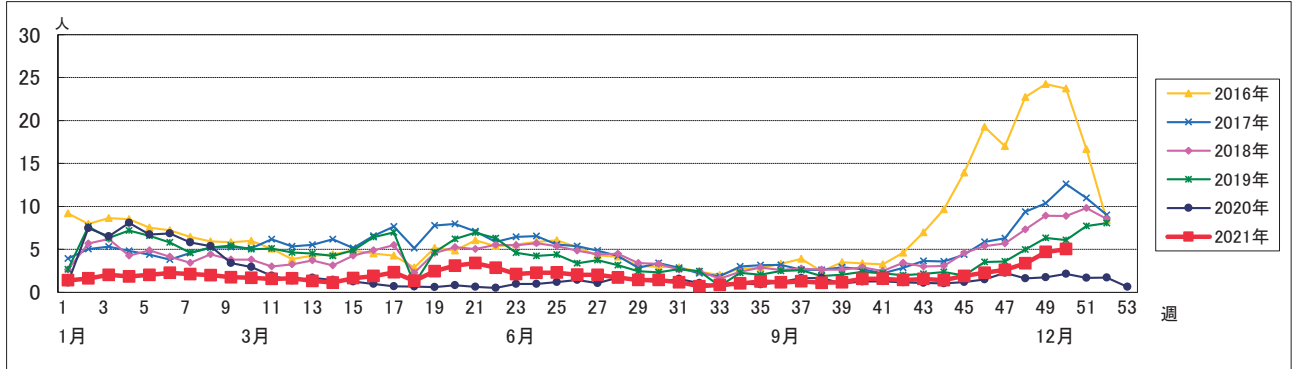
※ 検査総数: 医療機関(民間検査機関等)、接触者外来、市衛生研究所の検査数の合計



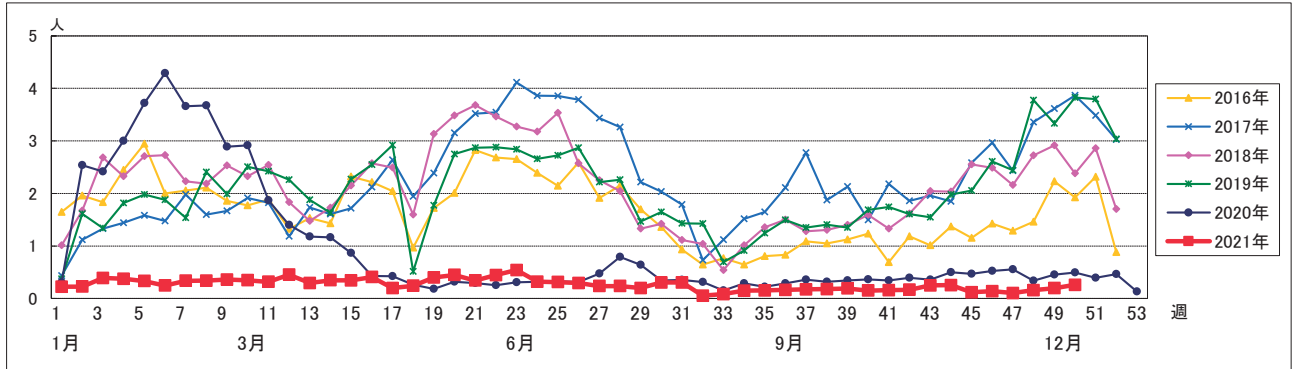
報告週対応表	
第47週	11月22日～11月28日
第48週	11月29日～12月5日
第49週	12月6日～12月12日
第50週	12月13日～12月19日

◇ 定点把握の対象

1 感染性胃腸炎: 昨年より高めの報告数で推移していて、第47週2.60、第48週3.36、第49週4.68、第50週5.02と増加しています。



2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第47週0.10、第48週0.16、第49週0.20、第50週0.26となっています。



3 性感染症(11月)

性器クラミジア感染症	男性:35件	女性:21件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:6件	女性:9件
尖圭コンジローマ	男性:6件	女性:0件	淋菌感染症	男性:19件	女性:5件

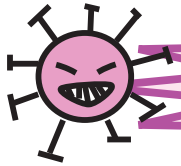
4 基幹定点週報

	第47週	第48週	第49週	第50週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.33	0.33	0.33	0.33
マイコプラズマ肺炎	0.33	0.33	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(11月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	16件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。
 横浜市衛生研究所ホームページ URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/>



感染症に気をつけよう!

2021年【1月号】

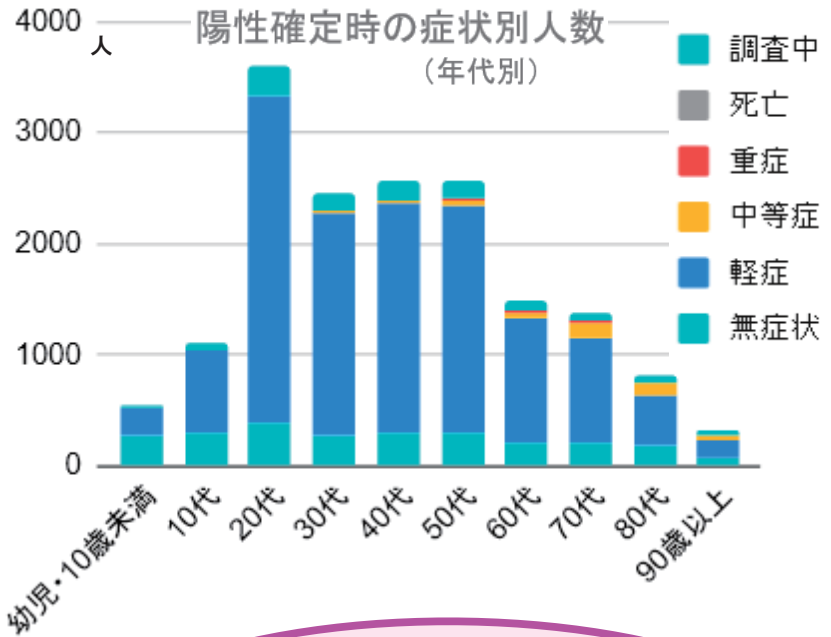
横浜市感染症情報センター

今、気をつけたい感染症



新型コロナウイルス感染症

横浜市内の
陽性患者数
(1月24日時点)
累計 16,825人

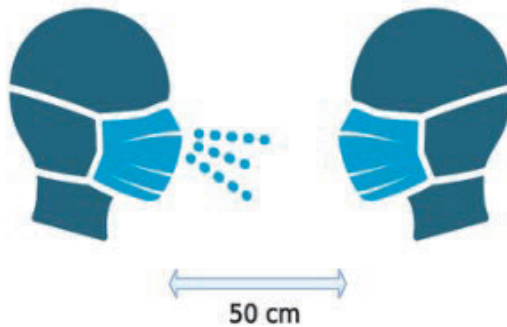


マスクの効果

▶ 自分と相手の両方がマスクを着用することで、「ウイルスの吸い込みを7割以上抑える」との研究結果があります。

- ▶ 特に、室内で会話する場合は、マスクを正しく着用する必要があります。
- ▶ 屋外であっても、感染防止に必要な「最低1メートル」の間隔を保てない場合があります。
- ▶ 話す時は、いつでもマスクを着けましょう。

③ 両方がマスクを着用



両方が布マスク
70% ↓

両方がサージカル
マスク (不織布マスク)
75% ↓

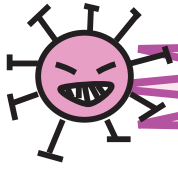
東京大学医科学研究所のデータを
基に内閣官房作成の資料から
マスク着用例 ③ を抜粋

厚生労働省
【新型コロナウイルスに関するQ&A】



横浜市保健所
【新型コロナウイルス感染症対策】



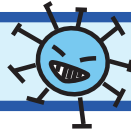


感染症に気をつけよう!

2021年【2月号】

横浜市感染症情報センター

今、気をつけたい感染症

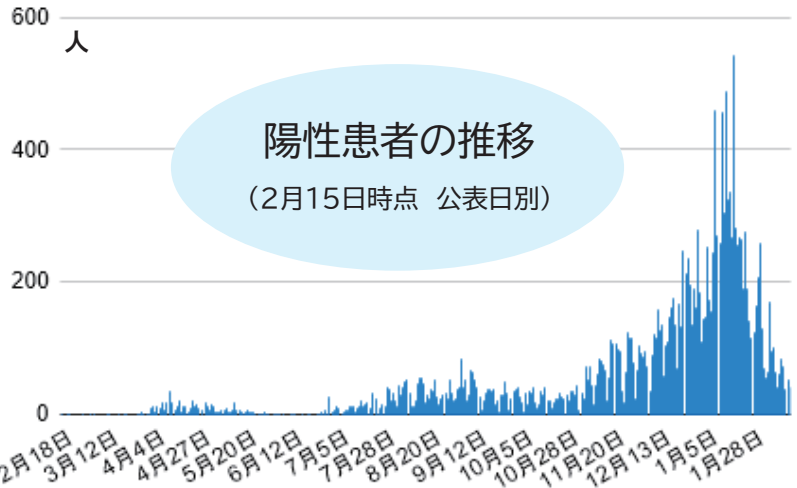


新型コロナウイルス感染症

横浜市内の
陽性患者数

(2月15日時点)

累計 19,189



洗っていない手で
顔を触らないでください!

ウイルスが付着した手で目・鼻・口に触ると、
粘膜からウイルスが体内に入り
感染(接触感染)してしまう
可能性があります。



人は無意識に
顔を触っています!

その頻度については、1時間に平均23回
このうち、目・鼻・口などの粘膜は約44%
を占めているとの報告があります。*



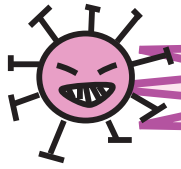
厚生労働省*
【新型コロナウイルスに関するQ&A】



横浜市保健所
【新型コロナウイルス感染症対策】



【新型コロナウイルスのワクチン接種】

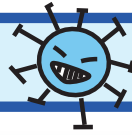


感染症に気をつけよう!

2021年【3月号】

横浜市感染症情報センター

今、気をつけたい感染症

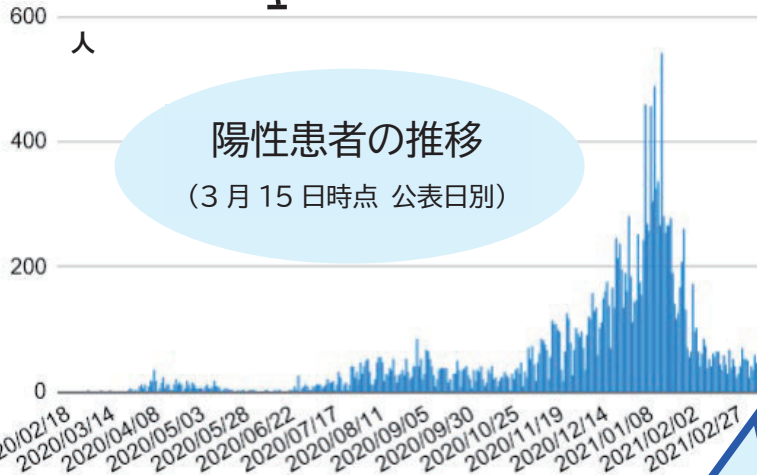
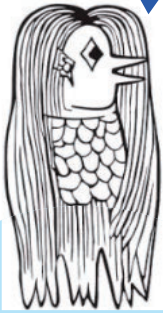


新型コロナウイルス感染症

横浜市内の
陽性患者数

(3月15日時点)

累計 20,488 人



手洗いのすすめ!

自分が感染する危険性を下げるだけでなく、
大切な家族や周りの人達への
感染拡大を防ぐことができます。



水とハンドソープで
ウイルスは減らせます!

手や指に付着しているウイルスの数は、
流水による15秒の手洗いだけで **1/100** に、
石けんやハンドソープで10秒もみ洗いし
流水で15秒すすぐと
1/10,000 に減らせます*。



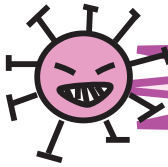
厚生労働省*
【新型コロナウイルスに関するQ&A】



横浜市保健所
【新型コロナウイルス感染症対策】



【新型コロナウイルスのワクチン接種】

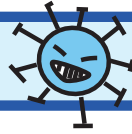


感染症に気をつけよう！

2021年【4月号】

横浜市感染症情報センター

今、気をつけたい感染症

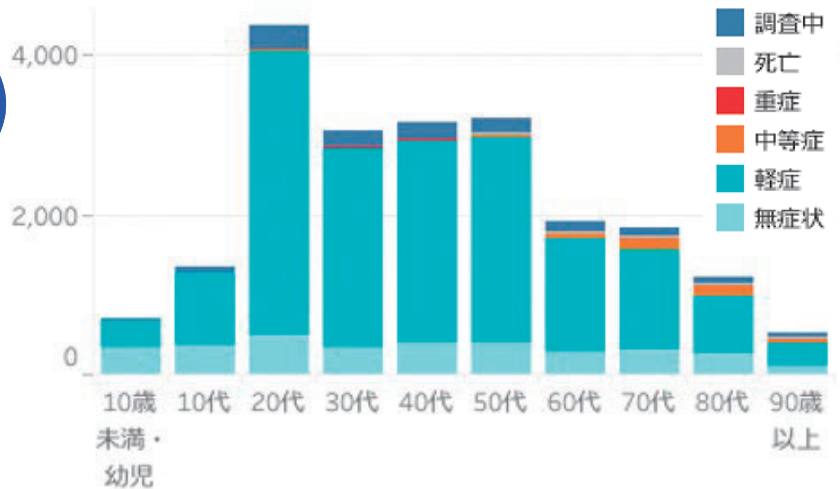


新型コロナウイルス感染症

横浜市内
陽性確定時の
症状別人数(年代別)
(4月1日時点 累積)



基本的な
相談の流れ



風邪のような **症状があり**、受診したい

かかりつけ医がいる

かかりつけ医に連絡



症状はないが

濃厚接触者になったかもしれない
接触確認アプリ(COCONA)で通知された

かかりつけ医がない
受診する医療機関がわからない

横浜市新型コロナウイルス感染症コールセンター
(帰国者・接触者相談センター) (24時間受付)
電話: 045-550-5530
FAX: 045-846-0500



これらに関わらず (特に 夜間・休日) 症状が重い、徐々に悪化している等
緊急の場合 → 119 (救急車を依頼)



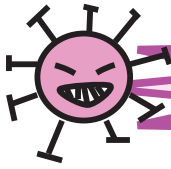
厚生労働省
【新型コロナウイルスに関するQ&A】



横浜市保健所
【新型コロナウイルス感染症対策】



【新型コロナウイルスのワクチン接種】

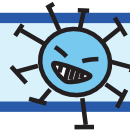


感染症に気をつけよう!

2021年【5月号】

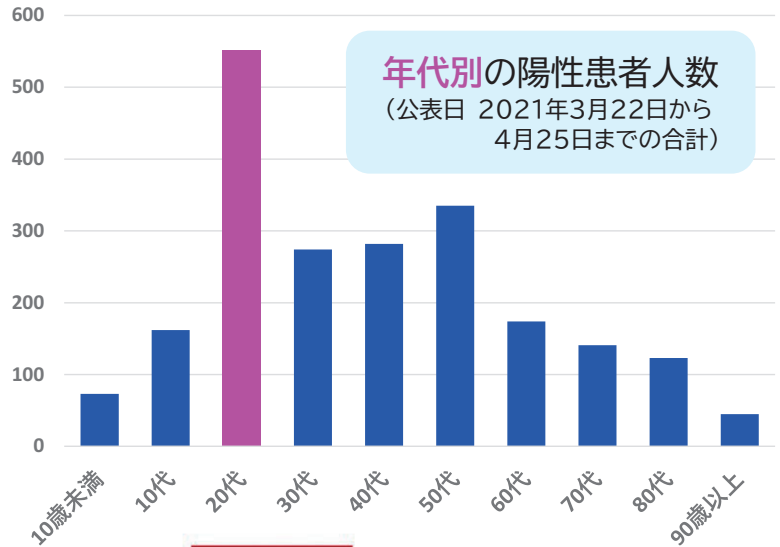
横浜市感染症情報センター

今、気をつけたい感染症



新型コロナウイルス感染症

横浜市内
陽性患者の状況



変異株であっても、個人の基本的な感染予防策が有効です。*
3密の回避、マスクの着用、手洗いを徹底しましょう。



マスク着用

自分と相手の両方がマスクを着用することで、「ウイルスの吸い込みを7割以上抑える」との研究結果があります。*



密集回避



密接回避



密閉回避

手や指に付着しているウイルスの数は、石けんやハンドソープで10秒もみ洗いし流水で15秒すすぐと1/10,000に減らせます。*



手洗い

厚生労働省*

【新型コロナウイルスに関するQ&A】



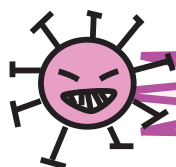
横浜市保健所

【新型コロナウイルス感染症対策】



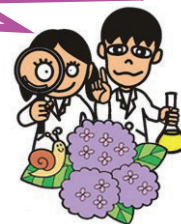
【新型コロナウイルスのワクチン接種】








感染症に気をつけよう!

2021年【6月号】



横浜市内の感染症 流行状況

感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
RSウイルス感染症**	 流行	 急増	5月以降、急増しています。全国的にも、例年を上回る状況です。 【'16.10号】
新型コロナウイルス感染症*	 流行	 横ばい	市内でも報告が続いています。年齢層別では20代が多いです。 【'21.5号】

国立感染症研究所* 横浜市感染症情報センター

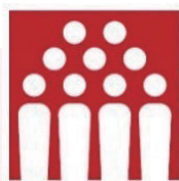
今、気をつけたい感染症 新型コロナウイルス感染症

密閉、密集、密接が重なる3密の場面だけでなく、2つあるいは1つだけの要素でも感染のリスクがあります。



密閉回避

- ✓ 風の流れることができるよう、2方向の窓を1回に数分間程度、全開にしましょう。
- ✓ 換気回数は1時間に2回以上確保しましょう。



密集回避

- ✓ 他の人とは、互いに手を伸ばして届かない十分な距離(2m以上)を取りましょう。



できるだけ「ゼロ密」を**目指しましょう。



密接回避

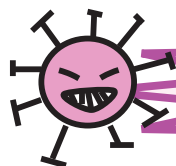
- ✓ 密接した会話や発声は、ウイルスを含んだ飛沫を飛び散らせがちです。
- ✓ 「5分間の会話で1回の咳と同じくらいの飛沫(約3,000個)が飛ぶ」と報告されています。



厚生労働省**
【新型コロナウイルスに関するQ&A】



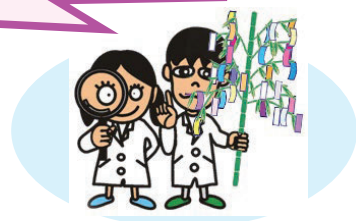
横浜市保健所
【新型コロナウイルス感染症対策】









感染症に気をつけよう!

2021年【7月号】

横浜市内の感染症 流行状況



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
新型コロナウイルス感染症*	 流行	 横ばい	5月中旬以降、報告数は、ほぼ横ばいの状況が続いています。【'21.6号】
腸管出血性大腸菌感染症**	 発生	 増加	報告数が増えています。施設での集団発生も確認されました。【'19.9号】【ちらし】
RSウイルス感染症**	 流行	 急増	流行が始まる時期が例年より早く、報告数も急増しています。【'16.10号】【臨時情報】

国立感染症研究所* 横浜市感染症情報センター

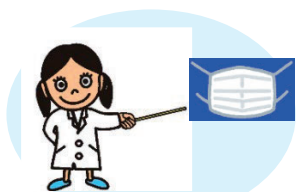
今、気をつけたい感染症 新型コロナウイルス感染症

● **変異株** であっても、個人の**基本的な感染予防策が有効**です。** 



▶ 3つの密(密集、密接、密閉)の回避、マスクの着用、手洗いを徹底してください。

● **マスクは、すき間なく正しく** 着用しましょう。

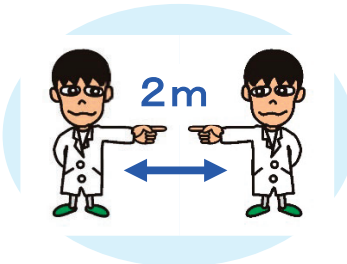


▶ ただし、マスクを着けていない時と比べると、心拍数や呼吸数、血中の二酸化炭素濃度、体感温度(人が感じる暑さ)が上昇するなど、身体に負担がかかることがあります。

▶ そのため、夏に**気温・湿度が高い環境でマスクを着けると、熱中症のリスクが高まります。**



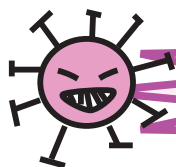
▶ 屋外で人と十分な距離(少なくとも2m以上)が保てる場合には、マスクをはずすようにしましょう。**



厚生労働省**
【新型コロナウイルスに関するQ&A】



横浜市保健所
【新型コロナウイルス感染症対策】

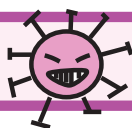


感染症に気をつけよう!

2021年【8月号】



横浜市内の感染症 流行状況



感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
新型コロナウイルス感染症*	大流行	急増	陽性患者数は増加傾向でしたが、7月下旬からさらに急激に増えています。【'21.7号】
腸管出血性大腸菌感染症**	発生	横ばい	症状のない人(無症状病原体保有者)を含め、報告数が多いです。【'19.9号】【ちらし】
RSウイルス感染症**	流行	減少	7月上旬に比べて少ないですが、例年より多い状況は続いています。【'16.10号】【臨時情報】
梅毒**	発生	横ばい	報告数の比較的多い状況が、継続しています。

国立感染症研究所* 横浜市感染症情報センター

今、気をつけたい感染症 新型コロナウイルス感染症



変異株であっても、個人の基本的な感染予防策が有効です。**



マスク着用



手洗い



密閉、密集、密接の1つだけでも感染のリスクがあります。できるだけ「ゼロ密」を目指しましょう。**



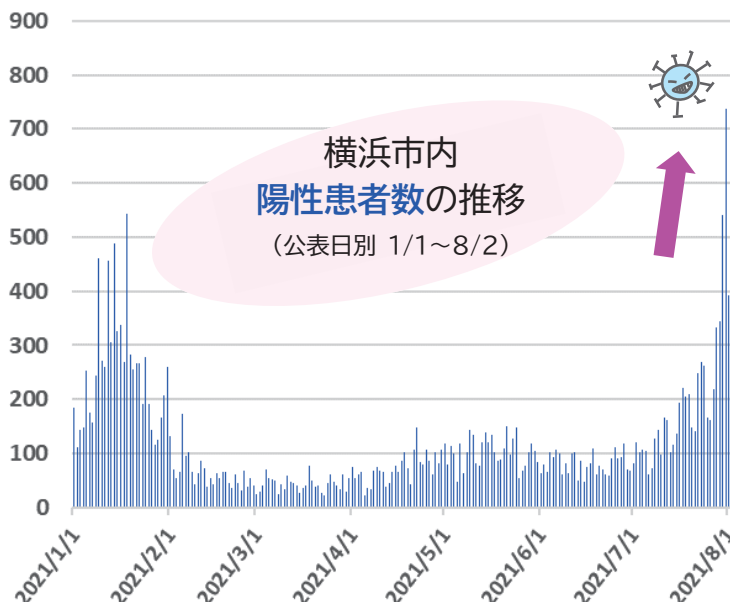
密閉回避



密集回避



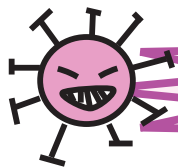
密接回避



厚生労働省**
【新型コロナウイルスに関するQ&A】



横浜市保健所
【新型コロナウイルス感染症対策】



感染症に気をつけよう!

2021年【9月号】

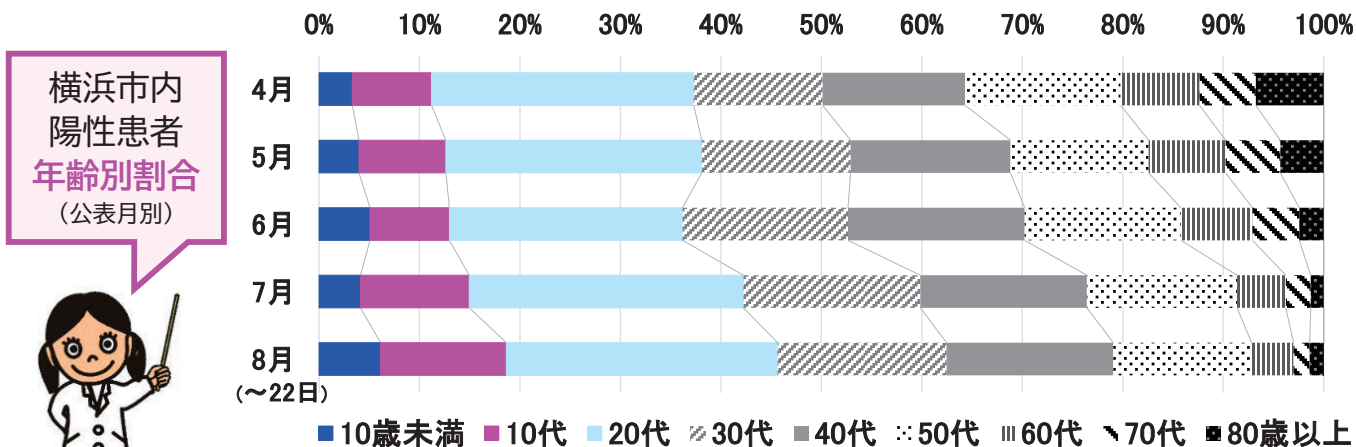


横浜市内の感染症 流行状況

感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
新型コロナウイルス感染症*	大流行	増加	陽性患者数は増加が続き、年齢別では50代以下で9割以上を占めています。【'21.8号】
腸管出血性大腸菌感染症**	発生	横ばい	症状のない人(無症状病原体保有者)を含め、報告数が多いです。【'19.9号】【ちらし】
梅毒**	発生	横ばい	報告数の比較的多い状況が、継続しています。
RSウイルス感染症**	発生	減少	ピーク後の減少中も例年を上回っていましたが、8月以降ほぼ例年程度です。【'16.10号】

国立感染症研究所* 横浜市感染症情報センター

今、気をつけたい感染症 新型コロナウイルス感染症



新型コロナは人と人の接触で広がります。最近会っていなかった友だち、初めて会う人との接触をできるだけ減らすことが感染拡大を抑えます。**

知り合いだけでなく、知り合いの知り合いにまで、感染が広がってしまう可能性もあります。

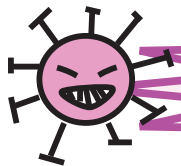


厚生労働省**
【新型コロナウイルスに関するQ&A】



横浜市保健所
【新型コロナウイルス感染症対策】



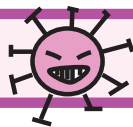


感染症に気をつけよう!

2021年【10月号】



横浜市内の **感染症**



流行状況

10月13日
発行

感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
新型コロナウイルス感染症*	流行	減少	8月下旬がピークでした。今後、感染が急拡大し第6波が来る可能性があります。【'21.9号】
腸管出血性大腸菌感染症**	発生	横ばい	6月に施設で集団感染事例が発生した後は、例年と同様の報告数です。【'19.9号】【ちらし】
梅毒**	発生	横ばい	報告数の比較的多い状況が、継続しています。

国立感染症研究所*

厚生労働省**

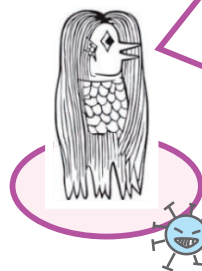
今、気をつけたい **感染症**



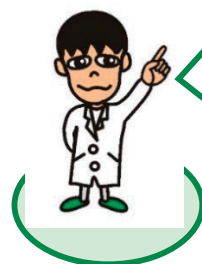
新型コロナウイルス感染症



新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザ等は、症状だけで区別することは困難です。医療機関では、どちらのケースにも対応できるように事前準備が必要です。**発熱・咳・のどの痛み・全身倦怠感**などの症状が出たら、**受診する前に必ず医療機関へ連絡**してください。



感染した人の口や鼻から、咳や会話などの時に排出される、**ウイルスを含む飛沫**または更に小さな粒子(エアロゾル)を吸い込むと**感染**します。特に、エアロゾルは1mより離れた空気中にとどまる可能性があります。そのため、**長時間滞在しがちな、換気が不十分だったり、混雑した室内では、感染が広がるリスク**があるのです。また、**ウイルスが付いた物に触った後、手を洗わずに目・鼻・口に触れて感染**する場合があります。***

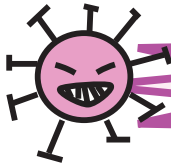


長引く症状(後遺症) について、6月に次の中間報告が出ています。***
2020年1月~2021年2月に COVID-19 PCR 検査もしくは抗原検査陽性で入院した525症例のうち、**診断後6か月経過した246例において症状が残っている人の割合** = **疲労感・倦怠感21%、息苦しさ13%、睡眠障害・思考力や集中力低下11%、脱毛10%、筋力低下・頭痛・嗅覚味覚障害9%**

厚生労働省
【新型コロナウイルスに関するQ&A】***

横浜市保健所
【新型コロナウイルス感染症対策】

横浜市衛生研究所
【感染症情報センター】



感染症に気をつけよう!

2021年【11月号】



横浜市内の感染症 流行状況

11月12日
発行

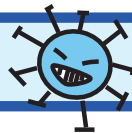
感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
新型コロナウイルス感染症*	発生	横ばい	感染者数は少ない状況ですが、今後、感染が再び拡大する可能性があります。【'21.10号】
腸管出血性大腸菌感染症**	発生	横ばい	6月に施設で集団感染事例が発生した後は、例年と同様の報告数です。【'19.9号】【ちらし】
梅毒**	発生	横ばい	報告数の比較的多い状況が、継続しています。

国立感染症研究所*

厚生労働省**

横浜市衛生研究所【感染症情報センター】

今、気をつけたい感染症 新型コロナウイルス感染症

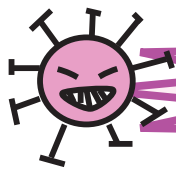


■ 手や指などのウイルス対策では、**洗い流すことが最も重要**です。■ 流水で手洗いができない時は、**アルコールを含んだ手指消毒薬**を使いましょう。(アルコールは、ウイルスの膜を壊して無毒化します。) ■ 手のひらに消毒薬を約3ml(ポンプ1回分)取り、初めに両手の指先に消毒薬をすりこみます。**指先から消毒するのがポイント**です。*



横浜市保健所
【新型コロナウイルス感染症対策】

厚生労働省
【新型コロナウイルスに関するQ&A】



感染症に気をつけよう!

2021年【12月号】



横浜市内の感染症 流行状況

12月16日
発行

感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】
新型コロナウイルス感染症*	発生	横ばい	感染者数は少ない状況ですが、今後、感染が再び拡大する可能性があります。【'21.11号】
梅毒**	発生	横ばい	報告数の比較的多い状況が、継続しています。

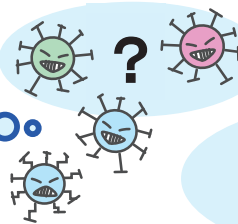
国立感染症研究所*

厚生労働省**

横浜市衛生研究所【感染症情報センター】

今、気をつけたい感染症 新型コロナウイルス感染症

季節性インフルエンザや風邪などと
新型コロナウイルス感染症は
症状がよく似ているので...



■ ...症状だけでは どちらの感染症なのか分かりませんか？

「筋肉痛があるから、きっとインフルエンザだね。」のような自己判断は止めて、まずはかかりつけ医に相談しましょう。

■ 発熱・咳・のどの痛み・全身倦怠感等で受診の際は 必ず事前に電話連絡！

皆さんが受診する医療機関では、どちらの場合でも診察できるように準備します。
(他の症状で受診する患者さんと来院時間を分ける調整、個人防護具の着用など)

■ かかりつけ医がない、受診先が分からない場合は 横浜市の相談窓口

横浜市新型コロナウイルス感染症コールセンター (24時間対応 土日・祝日を含む)
電話:045-550-5530 FAX:045-846-0500

■ 重症、徐々に悪化など急ぎ受診が必要 連絡してから救急医療機関を受診

緊急の場合(特に夜間・休日)119番で救急車を依頼してください。



厚生労働省

横浜市保健所

【新型コロナウイルスに関するQ&A】

【新型コロナウイルス感染症に関する相談窓口】 【子ども向けページ(ワクチン接種)】

横浜市感染症発生動向調査事業概要
2021年(令和3年)

横浜市健康福祉局 衛生研究所 感染症・疫学情報課
2023年1月発行

〒236-0051 横浜市金沢区富岡東二丁目7番1号
Tel 045(370)9237
Fax 045(370)8462

紙へリサイクル可